

## 4000 名山記 2017年

○ 平成29年1月1日 滋賀南3山(:1山)

・「阿星山」8:15~10:35(2:20)林道通行止め口より周回。登山口不明で止む無く、堰堤の階段・沢・獣道進むと林道に出る。かなり崩壊しつつある林道を辿り進むと本道らしき入口を確認。さらに林道進み分岐。右に下ってゆくと下りになるので途中より左の尾根・境界標進むと再び林道。少し登ってゆくと池のある広場の分岐。ハイキングコースの山の表示あり安堵。右へ進みすぐ案内表示で山入り。急坂等経て電波塔脇の阿星山山頂。二等三角点、樹間より眺めあり、朝日楽しみ、一息入れ戻る。途中、寺からのルートで登ってきた人に挨拶。下りは、途中よりテープある尾根を辿り、軽快に下る。白山神社・寺参拝し林道通行止めまで戻る。

・「太神山」11:45~14:50(3:05)林道(デコボコ道)終点より、初詣の車が多い駐車場より急坂道経て不動寺参拝しピークの太神山山頂(12:00)。二等三角点、晴れ。来た道戻り途中より山門口へ下る。近くの矢筈山までと崩壊で進めない表示板に動揺しつつ、とりあえず行けるところまでと門のすぐ左の尾根道を進んでゆく。尾根を行けども行けども表示はなく、テープが時折ある。方向が違ったようで戻る。途中で遠方に形の良い山あり、とりあえずそこを目指して進む。尾根道・沢・尾根道を何度か繰り返し見えた山の麓の本道に出る。西へ進むとすぐ矢筈山の表示で安堵(1時間以上の時間ロス)。急坂辿り進むと(矢筈山)山頂。先への縦走路歩きは時間なく取りやめて山門、分岐、急坂辿り戻る。

「笹ガ岳」15:55~17:25(1:30)東登山口より往復。バス停の空きスペースに駐車し、日没迫り、急ぎ足で笹等かき分け急坂登り笹ガ岳山頂。三角点・狸の大きな陶器のおなかに山名表示あり。尾根先の巨大延命石をぐぐり、夕日を楽しみ、急ぎ足で薄暮までに下山。

・1/2(月)滋賀南2山、京都南2山(:1山) 晴れ

・「笹間ヶ岳」7:40~9:45(2:05)新茂智神社口より往復。東海自然歩道を歩くつもりが、分岐より左の林道進み終点よりテープ・道らしきを辿り尾根。シダ藪の道らしきを尾根を辿って進んでいく。本道ではない様子。かなり尾根を迂回する先に目指す山を確認。下りも考え進む。山直下急坂は、右にトラバースして東海自然歩道表示に従い進む。急坂の岩尾根進み、昨日縦走でできなかった笹間ヶ岳山頂。三角点あり、巨岩の上へ梯子使い登る。大津市街、琵琶湖、朝日等眺め楽しむ。すぐ縦走の登山者が来て挨拶し、淡々と下る。途中夫婦に会い挨拶。下りはやけに立派な道(東海自然歩道)を歩き、大きなため池経て林道分岐に戻り、神社に参拝。

・「猪背山」10:45~12:35(1:50)納所の林道を進み橋口に駐車し往復。林道進み、途中より崩壊で荒れた道進み終点に登山口の表示あり。急坂を登りなだらかとなり進み、さらに急坂登ると猪背山山頂(山容からの命名らしい)。三角点あり、松林等樹林の中の山頂。下りは、松の多い山であることを確認しつつ戻る。

・「鷲峰山」13:10~13:30(0:20)金胎寺口より往復。山頂に塔あり。すぐ近くの電波塔2つの奥に(釈迦岳:1等三角点:表示は鷲峰山)12:35~12:45(0:10)。地元の人に挨拶。

・「笠置山」14:25~16:45(2:20)いこいの館駐車場より往復。旧道経て笠置山(寺・社)15:10。奥の最高点の三角点目指す。入口まで進むが、自然歩道を行くとは知らず、どこが三角点かと探し回る。自然歩道案内を進み行き止まりの左側に三角点確認し戻る。

今回はここまで。三日間共暖かい日和の山歩き。

○ 1月3連休 福井中央・北10山 その1

・1/7(土)福井中央3山「日野山」10:30~14:10(3:40)晴れ 日野神社より往復。やまゆき会例会の集合時刻に間に合わず、遅い出発で急ぎ足で登る。地元の人が、長靴・運動靴で下山する身近で人気の山か。

林道を経て登山道。急坂で例会本隊6名に合流。すぐ5合目で一休み。比丘尼の急坂は凍っており、慎重に登る、ブナ帯に出ると間もなく鳥居とその上に立派な神社のある日野山山頂。登山者が多い。雪の白山の眺め楽しみつつ昼食。二等三角点あり、越前市街の眺め楽しみ、例会メンバーに挨拶(13:30)して一足先に急ぎ足で来た道を古道歩きして下る。

・「ホノケ山」15:00～16:10(1:10)北倉林道の奥に駐車し往復。林舗道歩きし菅谷峠。ブナの尾根歩きしてホノケ山山頂。二等三角点あり、越前の海、白山等山々の眺めを陽光の中、楽しむ。ブナ林の中、稜線上のトレイルコースの山頂。下りは、軽快に戻る。

・「杣山」16:50～17:40(0:50)第一駐車場より往復。夕暮れ近く急ぎ足で、階段を一気に登る。西御殿跡を経て杣山山頂(17:15)。三角点あり、城跡・広場の山頂で、街明かり、おぼろ半月、山々の眺め楽しみ下山。夕闇近いが、半月の明かりに助けられつつ、薄暮に戻る。

・1/8(日)福井中央3山曇り「権現山」7:30～9:30(2:00)柳の滝駐車場より周回。遊歩道の滝巡りをして登ってゆく。特に布滝(36m)は圧巻。大モミの木を経て権現山山頂。神社・鐘あり、街・山の眺め良い。上の碑で山々の展望楽しみ、表参道の急坂・植林道・遊歩道を経て戻る。

・「鉢伏山」10:40～12:40(2:00)木ノ芽トンネル西の古道を往復。古道を昔の史跡確認しつつ、ゆっくり登る。木ノ芽峠は民家あり、犬3匹に吠えられる。この峠が福井の天気予報で嶺北・嶺南を分けていることを知る。今庄のスキー場に出るが、雪なしで、鉢伏山から雪がなく下りて来る山歩きのスキーヤーに挨拶。スキー場終点の奥が鉢伏山の山頂で、鉢伏城址の広場。越前海岸・山々の眺めを大いに楽しむ。下りは、尾根を下り、木の芽峠碑の脇を経て古道を楽しみながら下る。戻ると雨が降り始める。

・「文殊山」14:00～15:35(1:35)移動して雨が止み、四方谷口より往復。林道進むと登山口。尾根に出てあとは稜線の尾根をアップダウンしながら進む。奥之院の神社を拝む(二等三角点)。胎内くぐり、別ルートの合流点を経て文殊山山頂。登山者多い。神社を参拝し、街・山の展望楽しみ、来たルートで登山口へ下山。林道より遊歩道を歩き戻る。戻ると雨が降り始める。

## ○ 1月3連休 福井中央・北10山 その2

・1/9(月)曇り「剣ヶ岳:標高568m」8:00～9:25(1:25)前夜の雨も止み、表示少なく、獣除けゲートあり、登山口探しに苦労。清滝砂防ダムより往復。管理舗道・林道終点より山入り。整備された階段・急坂を一気に登り進むと剣ヶ岳山頂。三角点・祠あり、街・山々の展望楽しむ。雲の中に陽の明かりあり。下りは、一気に下る。雪がなく、植木の伐採の音が賑やか。

・「吉野ヶ岳」林道大仏線沿いの登山口より往復。整備された植木の階段道進むと蔵王大権現神社。その奥が吉野ヶ岳山頂。三角点あり、広場の山頂。海・山・福井市街の眺めが良い。

・「剣ヶ岳:標高800m」10:40～11:20(0:40)林道大仏線竣工記念碑駐車場より周回。大仏寺山までここから歩いて行くか迷っていると地元の方が来て、目の前の剣へのルートないかの偵察で来たらしく挨拶。反対側に麓からの道はあるが、この林道からは一見道不明。尾根末端に道らしきあり、2人で藪道入り。人が歩いている痕跡あり、笹藪の薄い尾根下の獣道らしきを進んでゆくと次第に道らしき現れ、淡々と進み急坂登り進むと今日2件目の剣ヶ岳山頂。三角点、近くに反射板2つあり。笹・樹林の中の山頂。来た道戻る途中、林道見え、急坂下り林道に出て戻る。戻ると雨が降り始める。共に歩いた地元の方に案内され林道大仏線を進み、次の山の登山口でお礼述べる。

・「大仏寺山」13:10～13:50(0:40)林道登山口より雨の中往復。階段急坂登り稜線尾根。アップダウン繰り返し、永平寺ルートと合流して大仏寺山山頂。二等三角点、山・街の眺めあり。雨のためすぐ下山。来たルートを急ぎ足で戻る。

この時期まで暖かく、雪のない福井の山歩き。歩く山が遠方となり、雪道の長距離(10時間以上)運転は

つらいので、しばらく冬眠か・・・

小春日和で山行

- 1/28(土)29(日)天候穏やかで遠征。
- 1/28 福井北2山晴れ「一乗城山」10:35～13:25(2:50)朝倉氏庭園跡から自然歩道口へ周回。戦国朝倉氏の居城跡庭園口より上り廟の裏より地元の人が崩壊で廃道となった道を進む。獣道等道らしきを探しつつ、深軟雪の急斜面登り尾根。軟雪で潜り何度も長靴より雪をかき出し尾根進む。標識出て安堵。好天で軟い雪に苦戦。地元先人の跡を辿り1、2、3ノ丸跡を経て一乗城山山頂。積雪60cm、福井の街、雪の山々の眺め楽しむ。陽光が心地よい。下りは来た道の靴跡辿り、分岐より自然歩道のルートに雪滑り、楽しみながら下る。麓の道は、ショーカットして集落に出て、雪歩き楽しみつつ庭園跡に戻る。
- 「高須山」15:00～16:30(1:30)林道が雪で途中で駐車し、周回。地元の古老にルート確認し、残雪の林道を進み終点が登山口。急斜面を緩やかに回り込む道で西斜面雪多し。すぐに城址の広場の高須山山頂。積雪20cm。福井の街・海・白山等の雪山の眺め良い。表示版あり。来たルートをショートカットし登山口。そこから本来の登山道下る。獣除けゲートに出るも、その扱い分らず、獣と同じくゲートに沿って下り、ゲートを飛び越そうとして木より落下。ズボンが見事に裂けてしまってガックリ。墓あり、そこに下り、ゲートの開け方知り、何とか戻る。
- 1/29 石川西2山、晴れ「寺尾観音山」6:30～7:25(0:55)雪・氷の林道ゲート駐車場脇の参道口より往復。薄暗い中出発し、参道を歩く。すぐ明るくなり、間もなく寺尾観音。拝み、先へと獣等道らしき進み、寺尾観音山山頂。三角点のある平坦な山頂。積雪10cm。樹幹より雪の山々の眺めあり。下りは、軽快に雪面歩き楽しみ戻る。
- 「栗津岳」9:00～10:10(1:10)栗津温泉おしよつぺ公園駐車場より遊歩道を往復。登山口分らず、日帰り温泉総湯で何とか、大看板表示の地図をもらい、散策路を往復。栗津山山頂より街・海・山々の眺め、陽光を楽しみつつ食事。来た道戻る。途中地元の登山者に会い挨拶。皆私と同じく、長靴登山。総湯で汗を流し帰路へ。この時期、低山ではあるが、小春日和の中、歩いて大満足の2日間。ズボンの損傷は痛い。。

○ 2/24(金)休みで2/24,25 冬場の大遠征。

- 2/24 岐阜北1山「オサンババ」藪山で残雪期に山スキーで歩く。晴れ 12:35～14:35(2:00)めいほうスキー場リフト終点より往復。リフト終点 12:55。尾根を進み鞍部に下り、シールを付けて久しぶりの山スキー歩き。間もなく稜線に出てすぐオサンババ山頂 13:35。表示板、布3枚の目印あり。ブナ林・笹藪が雪に埋もれた平坦な山頂で、昨年登った烏帽子岳等の雪の山々・陽光を満喫。下りはシールを外してリフト終点まで行き、上級コースのアイスバーンの急斜面を慎重に下り、あとは久しぶりの滑りを楽しみ戻る。
- 2/25(土)岐阜西2山「小島山」7:35～10:40(3:05)南麓呉子谷上部の農地舗道終点より往復。ルート不明で、止む無く農地の奥の水源の沢を坂上り、作業道に出る。終点より、布目印に沢歩き。途中より鉄塔目指し右の尾根へと急坂上ると、テープが出てきて安堵。テープ頼りに進むと本道に出て、堅い残雪に助けられ、尾根歩き鉄塔過ぎるとすぐ小島山山頂。檜等林の平坦な山頂。積雪 40cm、三角点あり、南側は街の眺め良い。来たルートを確認しつつ残雪歩きを楽しみながら戻る。
- 「虎子山」11:40～17:05(5:25)国見岳スキー場奥駐車地より往復。小雪の降る中、先人の靴跡を辿り林道を国見峠まで進む。峠で天候回復し晴れ。ルート不明のため、取り敢えず、左の尾根を国見岳目指す。先人の足跡の尾根を進み、急坂経て(国見岳)山頂。古い標識と金属板あり。好天で、食事休憩。ルートを探るべく、伊吹山の方へ尾根を進む。鞍部まで下り、上り返すと(大元山)。この先は標高低くなるため引返

す。国見岳に戻り、峠の反対側の少し高い平坦な峰が目指す山と確認して一気に国見峠へ下る。峠 15:05 より休まず北側の尾根を淡々を休まず、急ぎ足で登る。堅雪に助けられ、稜線尾根 15:45。右側の稜線進み、最奥まで行き、戻り、2つのテープと金属板のある虎子山山頂を確認 16:05。平坦な残雪の山頂。雪の山々、集落の眺め楽しみ、急ぎ足で一気に峠へ下る。軟残雪の林道に足を潜らせながらも、スキー場整備の雪上車の音が聞こえるスキー場に明るいうちに戻る。明日盛岡でお祝い行事あるため、今回はここまで。

### 3/4(土)5(日)滋賀北2山、岐阜西1山

・3/4 「ブンゲン山」藪山 晴れ 11:00~14:55(3:55) 奥伊吹スキー場より往復。リフト活用しリフト10 終点より坂上ると稜線。スキー場の監視厳しく、一休み昼食後、稜線の山スキー諦め、スキー場の視界に入らない東側斜面をツボ足で歩く。ブナ林に癒されながら、アップダウン繰り返し、回り込むようにブンゲン山頂。三角点あり、テープと透明樹脂に白地の表示板あり。伊吹・琵琶湖の眺め等晴天のもとパノラマを楽しむ。来たルートに戻り、スキー場の人の多さと軟雪の斜面滑りを楽しみ戻る。

・「池田山」道の駅池田より林舗道進みゲート。地元の人に扱いを教えてもらい林道を車で進む。除雪された道進み、公園の除雪終了点が登山口。16:45~17:15(0:30) 残雪の登山道・稜線進み、屈曲点過ぎ間もなく、池田山山頂。二等三角点、展望台、石の標柱あり。積雪60cm。晴れ 山々・大垣平野の眺めを楽しみ戻る。

・3/5 晴れのち曇り「金糞山」6:40~14:55(8:15) 高山キャンプ場で谷のルートは通行止めのため、山側の林舗道の除雪終点近くに駐車し出発。積雪の林道は、時折軟雪で潜るため、青と白のテープより右側へ山入。急坂を軟雪に潜りながらも稜線に出ると少し雪は固め 8:00。昨日のブンゲン山が見え、尾根よりずうっと先が目指す山。堅雪の尾根をアップダウンしながら淡々と進む。幾度も上り下り繰り返しやっと鳥越峠。急坂の雪面を慎重に下り、上り返して、急坂上ると(小朝ノ頭)9:40。表示板あり、金糞山の眺め良い。本道の雪面に足跡確認し、安堵する。少し堅めの雪足跡を辿り、一旦下り、急坂上り返し、右側の雪の何もない急斜面の細い稜線(50m)を慎重に過ぎ、間もなく平坦な金糞山山頂 10:35。これから挑戦しなければいけない北側の雪の山々の眺め良い。先に跡続いており、進む。一旦下り、上り返し、雪庇・右側急斜面の稜線を慎重に進み、(白倉岳)山頂 11:10。途中先人にお礼と挨拶。本格装備で写真撮影していた。大展望楽しみ来たルートを金糞山に戻る 11:45。山スキー登山者2名いた。後は、急斜面を軟くなりつつある雪に潜りながら下り、上り返すと小朝ノ頭 12:35。途中何名かに挨拶。さらに下ると今日のやまゆき会例会のメンバーに会い目的達成。挨拶し状況確認。早めの下山を進め、さらに下るとメンバーに何人か会い挨拶。ここまでは想定したが、後は軟雪に潜り潜りで大苦戦(サングラス・ワカンに置いてきた)。何とか林道出合いの小森口 13:40。ここからは林道を進む。幾度も雪に足を潜らせながらもゆっくり下り、朝の山入り口経て駐車場に戻る。久しぶりの本格雪山歩きで体はクタクタ。

### 3/11(土)12(日)福井中央2山

「上谷山」11:05~17:00(5:55) 曇り後晴れ 藪山で残雪期の山歩き。広野浄水場口より往復。遅いスタートのため、先人の雪足跡辿り、林道経て山入り。目印テープあり、新雪等の軟雪で時折潜りながら、尾根へ。広野ダムの景が見え、尾根伝いに進むと(手倉山)山頂。先人の休憩の跡が見れる。淡々と進み、地元のスノーシュー4人に会い挨拶。今日は人多く高速道路並みとの話。新雪だが、踏み跡に助けられ、軽快に進み、ジャンクションピーク経て左雪庇、右急斜面を先人の踏み跡辿る。風が強くなり、寒さも増す中、足場とバランス注意し慎重に進む。途中で7人のパーティーに会い、お礼述べ挨拶。私は、軽身と長靴ツボ足のため、ワカンで本格冬装備の方から呆れられる。少し進むと上谷山山頂。踏み跡はここまで。寒さですぐ

雨具着けるが、手がかじかむ。周囲を歩き回り、山頂確認し一息。雪の山々の展望良い。晴れだが、冬風強く、すぐ来たルートに戻る。寒さに震えるが、雪上歩き楽しみ、手倉山で一息。今後目指すはるか先の雪の山々を確認。途中から軟雪で潜りながら、先人のパーティに追いつき、浄水場に戻る(結局背負ったワカン使わず)。

・3/12(日)「藤倉山」晴れ 6:05~11:40(5:35)北側のハイキングコースより往復。残雪期でなければ、すぐ往復可能な里山。朝の冷え込みで表面が堅い雪で中は最中状で時折潜りつつ、八十八地蔵の冬の菰掛けを巡り、弘法寺。一旦下り、上り返す。急坂の雪面潜りに苦戦しつつ、進むと(鍋倉山)山頂。表示板あり。尾根を下って、立派なブナ林の急坂雪面に潜りつつ直登し稜線。右に進むと案内表示。反対側が山頂のため、戻って、稜線を潜りつつ、ゆっくり進むと反射板・三角点表示板のある藤倉山山頂。雪の山々の展望楽しむ。下に雨具を着けて、潜りつつも、雪滑り楽しみ下山。鍋倉山で地元のワカン歩きの人に会い山話。昨日は冬山で今日は春山で今日は、ゆっくり山を楽しむとのこと。ワカンの跡に助けられ、軽快に寺まで戻る。一息入れ、春の穏やか日差しを楽しみつつ戻る。

### 3/18(土)19(日)福井中央2山 藪山

・3/18 「美濃俣丸」9:35~17:20(7:45)残雪で通行不可のため、広野ダム公園口より往復。先人の雪足跡辿り、堅めの雪に助けられ、軽快に進む。3つの橋経て二ツ屋水道施設。先人の4人(今日はここまでのこと)と会い、行く方向(右)を教えてください。鈴谷橋渡り、雪解け林道進み、急坂経て林道をゆっくり進む。軟雪ながらも、あまり潜らずに進み、赤布より山入り。植林地進み、尾根に出て、跡辿り淡々と登り進み 1P。軟雪で潜るため、ワカン付けて先人のあと辿る。幾つかのピーク過ぎ、急坂を慎重に足場、ストックで確認しながら進むと平坦な美濃俣丸山頂 13:25。笹ヶ峰等雪の山々の展望良い。先人は南方向へ向かっている。先へ縦走するため、寝袋等準備し行きかけたが、薄い黒雲等天候今一つで、止む無く断念し来たルートに戻る。軽快に、雪下り楽しみ、1P。上を見ると美濃俣丸等の稜線は雲の中。林道に出て、雪のないところで、ワカン外す。ただ、残雪は軟雪で潜り放題。何とか、二ツ屋水道施設着 15:55。笹ヶ峰への道確認し、通り過ぎた軽身の人の後を追いつボ足で二ツ屋橋 16:20。ここからの林道が潜り放題で、先人はサクサクとツボ足進むが、こちらは、ゆっくり潜りつつ進み公園口に明るいうちに戻る。ゆっくり寛いでいると約20名の関西からのスノーシューの団体が次から次へと降りてくる。朝ダムサイトにあった乗用車の団体。同じ美濃俣丸を往復で、かなり手前より山入したとのことであらとした。

○3/19「笹ヶ峰」6:25~18:00(11:35)「伝説のハイカー編」昨日と同じ広野ダム公園口より大周回。今日は日帰りを決めて、昨日より軽めの荷物で堅雪の林道を軽快に進み、二ツ屋水道施設 7:10。左への日野川沿いの林道を進む。崖際の残雪が川へと続く2カ所のデブリは慎重に歩き進む。右から合流の川1つを経て旧大河内集落 8:30。2つ目の木橋(堰の上)を渡り、植林地へ山入。軟雪で細尾根は、木などで溶けて雪は、潜り放題の連続で苦戦。なだらかになったのも束の間、間もなく急斜面となり、喘ぎつつ一気に大岩近くまで進む。まだ急斜面が続き、日当たりが良いのか、急斜面で腰まで潜り、さらに奥まで引き込まれそうで、必死にストック等使い脱出。一步一步確認しながら慎重に急斜面通過して、安堵し何とか 1P。さらに進み、(源平谷山)10:55。目指す山が見えるがはるか遠い。尾根進むと、カモシカが現れ、突然の来訪者で驚いたように去ってゆく。急坂の尾根を強風・晴れの中、着実に登り、稜線のロボットピーク 11:50。強風の中、ゆっくり北へ進む。下り登り繰り返す、不動山方面分岐 12:10。雪庇等発達している稜線を慎重に歩き、笹ヶ峰山頂 12:40。東の奥にあり今後目指す不動山等の 360度の雪山の眺め楽しむが、戻りが心配のため、すぐ来たルートでロボットピークまで戻る 13:25。来た尾根下るのは、軟雪で諦め、昨日大勢が登り下った、稜線上の美濃俣丸を目指す。稜線の雪は、そこそこしまっており、ズンズンとツボ足歩きで進む。次のピークが(大河内山)で展望もよい。さらに下り登り繰り返す、強風の中進む。美濃俣丸直下に進み、安堵す

るも、ここの急斜面が、軟雪の連続で潜る、潜る。喘ぎつつも、登り進み、2度目の美濃俣丸山頂 14:45。山頂は予想どおりスノーシューで蹴散らされていた。ただ、下る身にとっては、大助かり。その跡を辿って一気に下り 1P。少し潜りつつも、軽快に林道まで出る。林道も少し潜るが淡々と下り、二ツ屋水道施設着 16:40。ここで一息入れる。雪のないところが続いたため林道をツボ足で下り、二ツ屋橋で、ずうっと背負ってきたワカンを着けて林道を疲れた足を気にしつつも、明るいうち、公園口駐車場に無事戻る。今回は総会出席のため、ここまで。

4月1日(土)2日(日)両日晴れ、福井北2山、岐阜西1山(藪山)

・4/1「飯降山」11:55～15:20(3:25) 飯降登山口より往復。整備された登山道進み、神社・城址分岐・植林地を経て5合目で残雪現る。ツボ足で潜らないよう選びながら、踏みしめ踏みしめ進む。尾根を進み、アンテナ小屋から林道に出て進むが、尾根と離れるため、急坂をよじ登り、再び尾根に戻り、ブナ林を進む。平坦な社に出て、少し進むと間もなく飯降山山頂。積雪1m以上で、祠ある平坦な山頂。雪の山々・大野の街の眺めを晴天のもと楽しむ。ワカンをつけて残雪を確認しつつ、潜らないよう選びつつ下る。5合目でワカンを外し尾根を一気に下り戻る。

・「国見岳」17:15～19:15(2:00) 冬季通行止め林道ゲートより往復(国見森林公園まで 5.6 kmの表示)。林舗道歩き、途中テープあるところより、藪入り。獣道進み林道に2度出会い、さらに登り尾根進むと旧遊歩道らしき黄色の杭の道あり。その旧道を進むと稜線。右に行き観測所で戻り左へ進む。駐車場を経て公園事務所。広場を経て先の電波塔目指し進むと奥に国見岳の山頂。一等三角点。途中夕日の眺め良い。ウグイスが鳴き、福井の街明かり・三日月がキレイ。夕暮れのため急ぎ来たルートに戻る。旧遊歩道は、合流点より下は、藪化しつつあり、歩けるところを進み、2つ目の林道出合いで薄暗く、獣道歩き断念し、右へと本道を目指す。曲がりくねった林道進み、何とか林舗道に出て安堵。月明りに助けられて淡々と下り、藪入り地点を経て鎖ゲートの駐車地に戻る。

・「土蔵岳」7:55～11:25(3:30) 藪山で県境のトンネル先のポンプ室があり、沢水を引いた旧家前に駐車し往復。植林地道の急坂尾根を辿り進むと、残雪増え、長靴にショートスパッツ付けて雪の入るのを防ぐツボ足歩行。植林の尾根を経て、急坂を雪にはまりつつも進み、1P。途中先人の雪足跡あり、それを辿る。ピンクテープ等に助けられ、尾根を下り登りして、少し潜りつつも、少々固めの雪に助けられて黙々と進む。急坂を潜りつつ進むと稜線。右に進むと土蔵岳の表示板、布等テープある平坦な山頂。山容の見事な蕎麦粒山、金糞山の雪の山塊の眺め良い。晴天の陽光、小鳥のさえずりを楽しみ一息。下りは、来たルート snowy、ブナ林等楽しみながら、雪足跡を辿り軽快に下る。途中、先人のあとを辿り過ぎ方向間違えたため、途中より急斜面を右に辿り、旧作業道を経て、旧人家先に出て国道を県境トンネル側に少し歩いて駐車地に戻る。暑さ等でバテたため、今回はここまで。

4/9(日)福井北3山 雨のち曇り

・「金毘羅山」7:05～8:00(0:55) 雨 近くの大芝山(三角点あり)を経て、林道を終点まで行き、引き返した駐車地より往復。林道を少し戻り、旧道らしきを辿り、茨、笹を分けて進むと間もなく反射板。その奥に神社あり。金毘羅山山頂。三角点あり、曇りで視界なし。来た道をショートカットし戻る。

・「越知山」曇り 9:15～9:40(0:25) 林舗道終点に駐車し鳥居を経て神社。左の奥社に向かう。階段等経てすぐ奥社のある越知山山頂。三角点あり、ブナ林の中の山頂。雲で視界なし。

・「六所山」12:00～13:50(1:50) 林道が倒木通行止め等で迂回して海山峠駐車場より往復。営林事務所奥の登山口より、進みすぐ雀ヶ峠分岐。左に進み、アップダウンして進むと(小六所山)山頂。石仏あり。地藏が見守る山道を林道出合い2つ経て、先へ進むと六所山山頂。二等三角点・神社あり。雲で視界なし。

来た60体の地蔵が見守る道を淡々と戻る。今回は天候不順ながらも、福井の満開の桜・越前海岸の眺めをドライブで楽しみつつ帰路へ。

4/14(金)休み取り、4/14～4/16「伝説のハイカー」2編。

○4/14「伝説のハイカー」その1 晴れ 岐阜西 藪山2山「千回沢山」山頂 11:15「不動山」同 12:05 7:05～17:40(10:35)徳山ダム奥の塚・白樺隧道先のオノ谷橋口より渡渉し尾根を往復。渡渉は行き・戻り2度共失敗。ここ数日の雨・雪解けで川の水嵩あり、水流も早い。取り敢えず、沢靴・短パンで流れの緩やかなところを選び、愛用の長靴(やや重い靴)を左に抱え、ストック2本をついて進む。中ほどより水深深くなり、川の勢いに負け棒立ちとなり、あつという間に流される。リュックの浮力で浮いているうち流れの早いところで対岸に近づき、必死で対岸の岩にしがみつき、上陸。急斜面を荷分けよじ登る。取り敢えず上の尾根まで行き荷物置き、ストック・長靴取りに戻る。尾根に戻り、ずぶ濡れの状況確認し、服を絞り、ズボン履き替える。長靴にも水入る。今日の天気は暑くなる予定のため、沢歩き靴等は、気に吊るし、短パンも木に干し、出発。小藪の獣・境界道らしきを辿り、尾根を登る。途中シャクナゲ藪をかき分け進み、1Pで雪が出て少し安堵。寝袋等をデポして少し軽くして、尾根の残雪を拾って、淡々と進む。稜線に出ると後は、残雪の上を踏み抜きに注意し慎重に、下り登り返して進むと念願の千回沢山山頂。表示札あり、平坦な山頂。好天で眺めよい。先へと稜線を左の雪庇、右の急斜面に注意し慎重に進む。残雪を淡々と踏みしめ進み、遂に簡単には来れないと考えていた不動山山頂。笹の覆う三角点を搔き出し目印布等にて山頂を確認。平坦な山頂で、晴天の360度のパノラマの雪山を眺めつつ、一休み。ここまで意外と順調。来た残雪道が柔くなり、少し潜りながら、千回沢山・稜線分岐へ。一息入れ尾根を下り、デポ荷物回収し、残雪を楽しむように下る。楽しみ過ぎて、登りのシャクナゲ藪に合わず、別尾根へ。間違いルート気づき(16:10)どこまで戻れば、わからず、とりあえずトラバースで3谷越えるが、体力使い厳しくなり、谷に慎重に下り、川辺に出る。かなり下流のため、藪等をかき分け上流へ進む。渡渉点に戻り、尾根の沢歩き靴等回収し渡渉準備 17:20。渡ったときより上流から長靴はリュックに括り付け渡渉開始。中ほどまで順調。川の深みで片足が水流に流され、ひっくり返る。水深も腰ぐらいですぐに起き上がる。取り敢えず、川を渡ることに注力。何とか渡り切り安堵したが、リュック・服もずぶ濡れで林舗道に上がり、橋の先の車に何とか戻る。すぐ着替え、行きつけの道の駅「藤橋の湯」まで移動し温まる。

・4/15(土)滋賀北2山 雨のち晴れ「横山岳」6:25～10:55(4:30)本コース通行止めのため、コエチ谷ルートを往復。林道を進み、終点より急坂を木々の新芽を確認しながら進み、稜線。少し下ると鳥越峠。立派な林舗道からの道あり。三高尾根の急坂をゆっくり進み、展望台。さらに進むと雨が降り始める。急坂手前で上に雨具着け、残雪地帯の急坂経て横山岳山頂 8:15。積雪 1.3m。平坦なブナ林の山頂。風あり、小雨で視界なし。来た道戻り、鳥越峠。時間あるので、植林地の稜線進み、(墓谷山)山頂 9:45。三角点ある平坦な植林地の山頂。小雨で視界なし。稜線に戻り、コエチ谷分岐より来たルート下り、白谷小屋駐車場に戻る。雨が本降りに。

・「安蔵山」晴れ 13:50～17:15(3:25)偵察のつもりで移動。道間違え、釣り人の方に目指す場所への行き方を教えてもらい旧田戸の林道ゲートより往復。ここでも、釣り人が自転車で戻り、付近の状況教えてもらい出発。ゲートの橋を渡り、左の急斜面の登り口を探しながら林道進む。旧パイプ階段あり、そこよりとりつく。急斜面を登ると床の抜けたパイプ組。過去掘ったトンネルあり。取り敢えず上へ。急斜面にへばりつく様に、慎重に登り進むと本道らしきに出会い登り進み 1P。高時ダム2級基準点。先へ下ると、獣道らしいが、黄色テープあり、下り、登り返す。テープ・道らしきを淡々と辿り進んでゆく。飽きた頃、ブナ平に出てさらに進むと安蔵山山頂。木にかけられたバトンに黒文字、赤テープの標識あり。平坦なブナ林の山頂。晴れて、残雪・ブナ林・陽光が心地よい。来た道を下山。途中鞍部手前の2重赤テープより左に下る。最初旧の道らし

きがあったが、次第に不明に。急坂を木に掴まり慎重に下り、植林地を経て東側の林道に出て安堵。3か所のパイプ階段を横目に進み南側を回り込み、元の山入地点を経て林道に戻る。

○4/16(日)晴れ「伝説のハイカー編」その2 岐阜西藪山2山「烏帽子山」山頂9:55「高丸」同11:05 夜叉ヶ池入口より橋渡りすぐ工事ゲートとブルで通行止め。手前に駐車し往復。5:50~15:40(9:50)地元の釣り人もこの時期にここで通行止めは異例とのことで、止む無く偵察で林舗道をてくてく歩き、バイクランド。さらに進むとイビデンダム。先の椀戸谷橋の手前より、旧林道の荒れた道を辿る。大きな沢の2つ目を渡り、山入。道なく、獣道らしき急坂を、木等に掴まりながら、藪かき分け登る。残雪が出てきて歩き易くなり、淡々と進む。細尾根となり再び藪をかき分け進むと旧林道出会い。正面は雪のない急斜面の藪のため、左の残雪の林道進む。残雪の残る谷の急坂を慎重に登り進み、1P。前方に烏帽子山の雄姿が見える。南面は雪がなく、西側の残雪を目指す。残雪の尾根を下って行き、鞍部より登り返し、急坂登るとジャンクションピーク(以下JPと略す)9:35。好天で、残雪があり、急斜面のため、荷物の大半をデゴし、サブザックの軽身で鞍部より、急坂の柔くなった残雪にステップを切って淡々と一気に登り、進むと烏帽子山山頂。木に表示板あり。平坦な山頂で大展望を楽しむ。急斜面の残雪を慎重に足元確認しつつ、鞍部に下りJPに戻る 10:15。時間あり、好天のため、半袖シャツのまま、次ヘトライ。稜線を踏み抜き、雪庇に注意し慎重にかつ淡々と進む、支尾根で一息。さらに同様の稜線尾根を下り登り返し進む。急坂で左雪庇・右急坂を右の灌木沿いの急坂を一步一步慎重に登り、藪の現れ始めた高丸山頂。三角点・表示板2枚あり、晴天でゆっくり一息入れる。平坦な山頂で、周りの山々の眺めを堪能。来た道辿り、急坂は慎重に、雪庇・踏み抜き注意し支尾根分岐。軟雪に少し潜るが軽快に歩きJPに戻る 12:00。荷物を回収し、ここから、朝歩いてきた林舗道見え感動。柔くなった雪に潜りながら一気に下り、登り返して 1P戻り。来た時の雪の足跡不明なため、南側の尾根を経て急坂藪を木等に掴まりながら下り、旧林道に出て、南端尾根起点に戻る。痩せ尾根藪を経て、残雪帯を軽快に進むが、またしても、来た道不明となり、急坂藪をかき分け、木等に掴まりつつ、下って、旧林道に下る。少し東側へ進み藪入り地点に戻り安堵。沢水楽しむ。谷渡りで、アーチ残雪ごと少し落ちたが無事で、荒れた旧林道を経て、椀戸谷橋南に無事戻る。心地よい日差しと春の息吹を感じながら、林舗道を歩いて、駐車地に帰る。3日間タフだったが、天候にも恵まれ、記憶に残る藪山の残雪歩きを満喫できて大満足。

4/22、23 北陸遠征。

・4/22(土)曇り 石川中部 1 山「伝説のハイカー編」「高三郎山」藪山 上寺津ダムゲートより長距離往復(約30km)。8:00~19:55(11:55)遠くから遠征し遅い出発。ゲートを抜け、林舗道を深い沢、芽吹きを確認しながら、登って行き犀川ダム。通行止めは落石を恐れてか、通常に車が通って行ける道。役所の大きな車を横目に、砂利の林道へ。少し進むと渡し舟の入り口に6台の車。地元の方はここまで入れて羨ましい。舟も利用できれば、歩きが大幅に短縮できるが?ダム湖の左側の道を淡々と進む。2つの大きな谷を経て左側に曲がって行く。崩壊等で右急斜面のガレバを慎重にトラバースして進み、吊り橋(舟着場)。渡り、左への整備された道を進むと旧取水建物の先は道が水没。地元の方が付けてくれた右の崖に沿った動く丸太・ロープ支えの補助道を慎重に進み先に出て一息。仮丸太橋に感謝。先へ進むと作業小屋設営の地元の方4名に会い挨拶。情報を頂く。先行者がいる。遅い出発でどうかと懸念されながらも、とりあえず進む。道を雪面トラバース等して進み、丸太橋を渡り、長尾根分岐 11:10。先人の跡辿り、急坂の道を軽快に登ってゆく。意外としっかりした道あり。残雪・ブナ帯を楽しみながら進むと、クマが木から降りてきた。大声上げるが、邪魔な奴とまた気に登りかけ、こちら大声に降りて右側に去って行く。小熊でこちらさほど気にはしなかったが、落ち着いてから笛を取り出し吹く。残雪で歩き易いと思っていたら、やせ尾根となり、雪がなくなる。刈り払いが過ぎると痩せ尾根の小藪で慎重に進む。先人2人に会った時は、細尾根藪にイライラし

ていた時。挨拶し山情報もらう。そこから先も長く、急な雪のない坂が続く。残雪現れ、左前方のシャクナゲ尾根と合流し一息。あとは、急斜面の残雪を慎重に進み、念願の高三郎山山頂 14:05。荷物デポし先の最高点へ。一旦下り、登り返し、右急坂を慎重に登り返り込んで、最高点(朽ち始めた板あり)。帰りに周囲の山々は過去登った奥深い山々であることを再確認。山頂に戻り、Tシャツの上に上着を着て、食事。長靴にスパッツ付け、軍手、帽子をつけて下山開始 14:55。シャクナゲ分岐経て急坂を慎重に下り、細尾根藪を淡々と下り、登りに見えた栃倉分岐より荷物デポし空身で下り登り返して(栃倉)ロボット雨量観測所あり。登った道に戻り、荷物を回収。天候は、黒雲で雨パラパラ。小熊に会ったブナ帯経て残雪を楽しみ一気に下る。最後は急坂を慎重に下り長尾根起点分岐 17:05。急ぎ足で、来た道に戻り、作業小屋で寛ぐ4名にお礼を述べ、親熊が居たら大変と釘を刺されたが、無事戻り喜んでくれた(当初はリュックに寝袋入れており、最悪泊めて下さいと声をかけていた)。そのまま、道を急ぎ足で下り、道水没のロープ掛けの動く丸太渡しは慎重に歩いて通過し安堵。吊り橋渡り、ガレバの急斜面も慎重にトラバースして過ぎて、道を淡々と戻り、犀川ダム 18:40。あとは薄暗い中、淡々と林舗道下り、星空が見れる頃無事ゲートの駐車場に戻る。長歩きで、懸案の高三郎山に登れて大満足。足は、筋肉痛で、体もボロボロ。日帰り温泉(湯涌温泉近く)で疲れを癒す。

・4/23(日)福井中部2山 晴れ「鬼ヶ岳」8:20~9:50(1:30)南東登山口(JA 施設ある)より往復。イノシシ除けゲート経て植林地進むと早くも、下山の人に会い挨拶。整備された岩等の道を鬼伝説の展望施設経て進み、急坂登ると平坦な広場・神社・展望台・三角点のある鬼ヶ岳山頂。登る途中・山頂でも幾人かに会い挨拶。好天で心地よく、海・集落・山々の眺め楽しみ下山。好天のためか、地元の軽装の人、子供連れ、年配者、団体等沢山の登山者に会う。この時期、人気の山であることを実感。

・「若須岳」10:40~11:10(0:30)越前西部2号線林道登山口より整備された越前遊歩道を往復。階段・急坂進み、若須岳山頂。二等三角点、広場・東屋のある山頂。晴天で小鳥の声、展望を楽しむ。今回はここまで。

5/1,2 休み取れ、大型ゴールデンウィーク第一弾。

・4/29(土)福井南3山「岩籠山」8:50~12:40(3:50)市橋コースより往復。林道進み終点より沢筋歩き。長靴で軽快に進み、途中敦賀の地元の方4名に挨拶。天気曇り予定とのこと。つづら折れの坂で若者6人に挨拶。初めの山でルート確認しながら歩いていた。稜線に出て左へ。回り込みアップダウン経て岩籠山山頂、三角点あり、山々の眺め良く、インディアン平原(岩と笹原)の景観楽しむ。先の岩へ進みそこから戻る。分岐より先の(夕暮山:三角点あり)へ寄り、分岐に戻り、沢筋を軽快に戻る。その後雨、雷雨となる。

・「西方ヶ岳」山頂 16:45「栄螺ヶ岳」同 17:25 15:15~19:15(4:00)常宮神社口より往復。午後雷雨等で様子見していると天候回復し遅い出発。整備された登山道で、登りに地元の親子、大勢の団体に会う。とりあえず、西方までと急ぐ。ブナ林等の道を軽快に進み西方ヶ岳山頂。避難小屋ある平坦な山頂で奥に二等三角点を確認。先へと急ぐ。アップ・ダウン経て徐々に下って行き、登り返すと栄螺ヶ岳山頂。大きな岩、三角点のある山頂。山々・海・陽光心地よい。日没迫り急ぎ引き返す。それでもカモンカ台の大岩より展望楽しみ、西方ヶ岳へ戻る。あとは、淡々と来た道辿り、銀命水も楽しむ。最後は、夕闇の夜景を楽しみつつ、暗くなって無事戻る。

○4/30(日)岐阜西3山 小藪の山々 「伝説のハイカー編」その1

「夜叉ヶ池山」山頂 10:15「三国山」同 10:35「三周ヶ岳」同 12:10 5:50~16:30(10:40)夜叉ヶ池林道のイビデンダム奥、ブルで封鎖された手前駐車場より往復。林舗道進むと崖崩れ対応工事中経て車が通れる道を淡々と進む。ゲートあり、そこまで釣り人の車2台あり。さらに林道を7km歩いてゆく。途中岩崩れ、デブリあり、本格通行に時間を要することを確認。夜叉ヶ池登山口駐車場に7:45到着。整備されていない登

山道へ。本格沢を2度長靴で渡渉し、左岸を登り、整備されたトラバース道を淡々と進む。沢筋の残雪デブリは慎重に通過し、また、遠くから雪渓に熊を発見し大声上げ、笛を吹きつつ通過。夜叉の壁見え、近づくに残雪地帯で、一部登山道出ているが、その先はルート不明。止む無く、先の左の尾根へ。慎重に残雪利用し急坂登り先を見ると登山ルートらしきなし。止む無くその尾根を獣道等利用し藪漕ぎ進む。急坂、岩のガレバとなり、獣のあとらしきを慎重に木・岩掴み、へばり付くようによじ登る。何とか危険地帯脱したかと思うと灌木藪。進むのに時間要するがここは上まで進むしかないで灌木をかき分け進み、何とか稜線。とりあえず右へ。少し進むと、池らしき見えて夜叉ヶ池山山頂。稜線上の小ピークながら、三周等の展望良い。来た道に戻り残雪等利用し笹をかき分け進むと三国岳山頂。境界標・ピンクテープ等ある平坦な残雪の山頂。再び戻り、夜叉ヶ池山を経て、一気に下り、夜叉池・分岐三叉路 11:10. 食事し北の稜線へ。急坂を笹、灌木等分けながら進み 1P。アップダウン繰り返すも、ササ等に苦戦。高丸へ続く尾根分岐を経て進むと残雪地帯となり、息を吹き返し軽快に進み、雪の溶けてない三周ヶ岳山頂。一等三角点、灌木が周囲にある平坦な山頂で、今春から苦労して登ってきた藪山の峰々が、晴天のもと見れて感激。下りも来た道辿り、残雪帯は軽快に、笹・灌木はかき分け進み。稜線分岐。ここから本道を下る。急坂を慎重に下ってゆくと、末端は大きな残雪の谷で道不明。ただ、来るとき通過した夏道が見え、残雪地帯を注意し通過し、雪のない登山道に無事戻る。あとは、来た道辿り、谷デブリ・川渡渉に注意し登山口戻り。長い林舗道歩いて戻る。好天にかなり助けられた楽しくも、長い山歩き。これで奥美濃の深い藪等の山は残り2山となり大満足。ここから1000 km車での大移動を経て、久しぶりの北海道へと続く(第二弾へ)。

## GW第二弾。

・5/2(火)晴れ 北海道2山

・「漁岳」4:35~8:35(4:00)沢登り・藪山 漁岳林道口より往復。林道入口より雪で通行できず、駐車し出発。残雪の林道を歩きゲートで入山届け。林道の終点までの距離表示に励まされ、早朝でやや硬めの残雪道歩き。終点 500m(夏道表示もあり)で、目印布・テープあり、入山。先人の踏み跡、テープ等頼りに尾根に出て、遙か先の雲が舞う白銀の峰を目指す。軽快に残雪を歩き、山頂直下は、強風。帽子・雨具・手袋等準備整え、只管、急坂の雪面を上へ上へとゆっくり進み、いつの間にか、稜線。軟雪で潜るもすぐ雪の解けた漁岳山頂。岩・ハイマツの平坦な三角点のある山頂。強風の中、恵庭岳・支笏湖・オコタンペ湖等の展望楽しむ。一息入れ下山。山頂直下に戻り一息。あとは来た道を雪歩き楽しみながら林道入山口に出て、林道歩き。ゲート近くで、地元の山スキー歩きの5人パーティーに挨拶。意外と早く戻る。

・「東ヌブカウシヌブリ」晴れ 13:55~16:15(2:20)白樺峠より往復。大移動して然別湖近くの山歩き。下山者に雪の状態聞くと好天・高温のため、スノーシューでも潜る軟雪。取り敢えず踏み跡辿る。何度も何度も潜るが、徐々に高度上げて平坦となり進むと東ヌブカウシヌブリ山頂。二等三角点ある平坦な山頂。十勝平野等の眺め楽しむ。隣の山へと稜線北へ進むが、途中で道不明でやむなく、先人の跡辿り下山。軟雪で潜り放題。気にせず下へ下へと只管下り、左側の樹林帯頼りに下り、本道に出会い、何度も潜りつつ、峠に戻る。ズボン膝から下がずぶ濡れ。然別湖の先を目指したが、崩壊通行止めのため、中止。今回のメインの知床に向かう。

○5/3(水)「海別岳」晴れ「伝説のハイカー編」その2 道のない藪山 6:30~13:05(6:35)林道は雪なく、登山口不明。海別山麓道突き当りを右折。先は作業道で川手前に駐車。先人の2人も最初から藪漕ぎであきらめムード。取り敢えず一緒に背丈以上の笹藪に藪入り(遅いスタート)。不慣れな2人を置き、先に進むと鹿防護柵が延々と続く。右に進み川に(伐採作業場近く)出る。止む無く、丈夫な柵を乗り越え進み、川を行ったり来たりして、笹道の先に旧林道らしきに出る。開けた道で、先人の靴跡もあり、そこを辿る。海別砂防第一ダムを経て進むと林道終点から先人の跡は、川へ。止む無く雪面等確認して左へ尾根を目指

す。樹林帯を抜けると広いダケカンバ帯。松の樹林帯を避け、まばらなダケカンバ帯を左へ左へ進む。途中で先人の2人の跡あり、先を越されたと悔しくなり、淡々と跡を追う。急坂雪面を歩く2人を見つけて、勢いよく登って行き、追いつく。2人は男女のペアで出発の2人でなく、啞然。来たルート等教えてもらい先行。ハイマツの残雪軟雪に何度も潜り苦戦しつつも、何とか稜線へ。稜線は、強風のため、帽子等身支度整え、進み1P。さらに稜線を何度も軟雪・ハイマツに潜りながら、海別岳山頂。風強いが、好天で斜里岳、遙か先の知床連山が遠くに見え、オホーツク海の眺めも良い。平坦な山頂で表示板確認して下山。途中、先行していた人に会い再度挨拶。爆風と云われて来たが、さほでなく助かるとの話。来た道を辿り、雪滑り楽しみながら一気に下る。2人との合流点より左に来たルートを着実に辿る。雪解けで跡がわからなくなったが、何とか林道終点・砂防ダム、林道始まり笹藪。渡渉して左岸を下り伐採作業場・道経て駐車地に戻る。同時に出発した車はなかった。教えてもらった林道を確認。山麓道突き当りを左に曲がり、ピークで右に進むと鹿ゲートの扉出て、開けて進むと残雪手前に2台の車あり。下山時山スキー2人組と別ルートの2人組に会い、人気の山か？。

### GW第三弾

・5/4(木)「遠音別岳」4:25~13:50(9:25)「伝説のハイカー編その3」道のない山 晴れ オプケブ林道ピークに駐車し往復。尾根の獣道らしきを淡々と進み高度を上げてゆく。1Pより山頂見え、方向を北東へ代え残雪地帯へ。地形は複雑で、方向等確認しながら、沢・急坂経て広い樹林・残雪帯。広幅の樹林帯のため、途中より落ち枝を拾い、目印にして立てて進む。ダケカンバ帯に出て、松帯を避けダケカンバを求めて進むも、松帯となり、潜りつつも、ハイマツに足を乗せさせてもらいゆっくり進む。松帯通過し急坂の雪面を左へ左へ回り込む。大きなクマの足跡らしきあるが、淡々と登る。上部は再びハイマツ帯。少し漕ぐと東側斜面は雪が残り歩ける。息を吹く返し、ハイマツの潜りに注意しながら上へ上への進んでゆく。途中より風強くなり、帽子等整え、只管上へと進んでゆく。まもなく念願の遠音別岳山頂。平坦な山頂だが、東側は絶壁が続く山頂。オホーツク・太平洋・遙か先に知床連山見えて大満足。一息入れ下山。来たルート辿る。潜るハイマツ帯を経て、ダケカンバ帯。目印の枝を倒しつつ、樹林帯を下る。枝なくなるも、雪跡探し、急坂・沢通過。そのあとは雪解けで、跡が見えにくく、右往左往しながら下って行き、何とか1P。安堵したが、先の獣道の尾根歩きでルートミスし、左側の林道に降りてしまう。林道を登り、オプケブ林道起点を経て林道を登り、無事林道ピークの駐車地に戻る。誰にも会わず。静かな山。硫黄岳・知床岳も予定したかったが、通行止め等で困難。再び大移動し、日高へ。5/5(金)日高山系最後のイドンナップへ挑む。砂利林道20km走行、睡眠不足、新冠ダムゲートで通行止め。止む無く、林道2時間以上歩きやっと登山口へ2kmの分岐。登山口1kmまで渡渉して進むが道間違いで1時間ロス。さらに登山口探し渡渉2度経て進むが、目指す沢らしきは、残雪で途中で目印なく(急坂谷藪・残雪沢で稜線に上がっても先が長丁場のため)撤退 4:55~11:40(5:45)。帰りの林道は睡眠不足と暑さで一時夢遊病者の歩き。リベンジの機会は来るか？

・5/6(土)「室蘭岳」4:20~6:00(1:40)だんばらスキー場より往復。昨日撤退の悔しさから予定になかった山歩き。(苫小牧フェリー乗り場8時戻り必須)整備されたスキー場脇の登山道を淡々と歩く。ダケカンバ・笹原帯に出て、背丈が小さくなる急坂経て室蘭岳山頂。一等三角点、鐘のある、平坦な山頂で、山々、室蘭の風景を楽しむ。天候怪しくなり、急ぎ足で、来たルートの水神社、白鳥ヒュッテ確認して戻る。GW大遠征(車走行距離2300km)はここまで。

5/19(金)休みを取り、北海道シリーズ第2弾。

○5/19~5/21 初めて北海道新幹線に乗車(5/18)しレンタカーで道南4山歩く。

・5/19(金)「雄針岳」10:55~16:25(5:30)晴れ 雄針沢登山口より往復。登山口に案内表示あり、入林届

出して出発。沢筋をテープ等目印に渡渉繰り返し進む。途中本来左へ行くところを直進し、枯れ沢登り進むと笹の覆うところとなる。赤布1つ確認したため、とりあえず上へと、薄笹藪探し進むも中々進まず、明るい方へとトラバースするうちに本流の沢と道らしきを確認。本道に無事復帰。30分近くロス。本流を幾度も渡渉繰り返し進むと水場の案内板。さらに登って行くと前方の巨大岩峰の直下に続く雪渓現る。急坂だが、慎重に雪面・溶けた草地を踏んで高度を上げてゆく。岩峰直下で雪渓が峰沿いに奥へ続いており、トラバースしつつ進む。雪渓末端・岩峰西端より方向転換し直登へ。急坂を雪渓・残置ロープ・木の根・笹等に掴まり、上ってゆく。開けた平坦地で一息入れ、さらに急坂進むと稜線末端に出る。後は、刈り払いされた笹原・まばらなダケカンバ帯。強風のため、すぐ雨具の上を羽織り、残雪・笹等で分かりにくく、ルート道らしきを探しながら進む、雄鉾岳山頂。二等三角点あり。晴天で太平洋・日本海ともに見える。さらに遊楽部岳等の山々の360度の展望楽しむ。食事し来た道を辿り、雪滑り・ブナ林・沢等確認しながら下る。道を間違えたところは、最近の異常天候でか、沢が各所で土砂崩れで崩壊しており、倒木もあり、歩きにくい、ピンクテープ等頼りに下り、登りに間違えた場所を確認(間違いは注意不足?)。後は、沢筋を溪流等楽しみながら戻る。入口のオボコ温泉で汗を流す。

○5/20(土)晴れ 2山「伝説のハイカー編」

「遊楽部岳」4:15~12:40(8:25) 林道登山口より長距離歩き(片道10km)。昨晚の強風が続く中、林道を道らしきを辿り進むと、見事なブナ林が続く。新緑のブナ楽しみ進むと日本海からの強風が吹く、新芽地帯。アップダウン繰り返し進むと先に1ピーク見える。残雪現れ、雪面利用し高度を上げて行き1P(白別頭:三角点あり、隣にも峰あり)。一息入れ、現在地を確認し先に見える本峰目指す。急坂の雪渓を楽しみながら軽快に下り、稜線を進み、鞍部より雪の続きが見える右側を詰めるが、上部は笹藪。止む無く笹藪を越えて本道に戻る。急坂を淡々と上り白水分岐のすぐ先の最高点(遊楽部岳頂上)。さらにハイマツ・笹のトンネル・稜線を進むとユーラップ岳山頂。一等三角点、灌木・笹が周囲にある平坦な広場の山頂。晴天のもと、山々の眺め楽しむ。戻りは、来た長いルート辿り、残雪歩き、急坂上り白別頭に戻る。すぐ下に八雲高校の若人(20名近く)。挨拶し通過するも、私の出で立ち(2本拾った木の杖、メガネに掛けたサングラス、長靴、半袖シャツ)に啞然とした様子。下ってゆくと遅れた4人に挨拶。いい山の旨伝える。その後2つのパーティーに会い挨拶。好天で結構人気ある山(?)。そのあとは暑さに耐え下り、ブナ帯の木陰等で息吹き返し、淡々と下る。麓も暑く取りあえず、移動。地元コンビニセイコーマートで腹ごしらえ・涼む。次の登山口探しは、道迷いしたが、砂利道林道をかなり走り、九郎嶽神社鳥居口到着。「乙部岳」15:50~19:40(3:50) 鳥居のある尾根コースを往復。涼しくなり、若干暑さも薄れる。時間がないので、尾根・ブナ林を急ぎ足で登って行き奥社分岐。とりえず山へと下り、登り返して高度を上げて行く。笹原は見事に刈り払いされ軽快に進む。4合目表示板確認。いくつかの峰を越え、急坂を一気に辿り、緩やかな笹原進むと沢筋コースとの合流点。息を整え・お腹を満たして、いざ稜線歩き。笹の続く稜線をいったん下り登り返すと乙部岳山頂。一等三角点、雨量計測定 of 巨大ドームが近くにある。広場の平坦な山頂。時間が遅いので急ぎ下る。分岐で先の九郎岳の道の有無を遠望したが、道なき様子で断念し、急ぎ足で下山。笹原・ブナ林の中かろやかに下る。九郎奥社に寄り、日没を確認して、ひたすら急ぎ足で駆け下り、薄暗い中戻る。今日は一日、沢山歩いた(日中の暑さ除けのコンビニ涼みは正解)。乙部温泉で汗流す。

・5/21(日)「七ツ岳」晴れ 4:50~12:10(7:20) 体の火照りと移動で睡眠不足気味の中、上の沢ゲート口より往復。長い林道歩き(片道9.3km)。落石・一カ所車両通行不可能な道路崩壊地は、回り道して進む。淡々と伐採跡、ブナ林、松の国有林林道歩き。標高600mまで行きようやく東回りの登山口(山頂まで2.6K、7:20)。ブナ林進み、大沼湖畔。左回りに半周し表示柱のみ(熊に案内板壊され?)場所より、上部へ。道不明となり、やむなくガレバの急斜面を枝、土・木に掴まりながら一気に登り切り、稜線道に出て安堵。左方向の峰を目指し、多くの虫に急き立てられるように稜線を進む。急坂経て七ツ岳山頂。晴れ、山々の眺め

良い。二等三角点あり。多くの虫に集られ、手帳に書き物するときの癖でメガネ外し脇に置く。メガネを取り上げるとなんとフレームを踏んづけていたため、片側の掛け金が折れてない。唾然と立ち尽くす。取り敢えず、メガネなしで下山へ。稜線に戻り、登ってきた合流点より先に進み、登りばかりで不安なところでようやく下りの階段に出会い安堵。慎重に下り、トラバース気味に横へ移動して行き、笹藪を経て湖畔の標柱に戻る。湖畔を反時計回りし、ブナ林を経て東回り登山口に戻る。後は長い林道歩き。裸眼でもある程度見えるので、淡々と下って行く。途中木陰で今日、山中で初めての食事をとり一息つく。後は、好天の暑さの中、木陰に癒されながら、ブナ林・トマツ、沢等楽しみながらゲートに戻る・車の中は猛暑。メガネは、緊急で輪ゴムで耳にかけて、ゆっくり片目で運転。ピンと会わず、左目閉じ片目で普通に(若干距離感が違うが)何とか運転。林道入り口の上ノ国温泉施設で汗流して、函館まで移動(約70km)。函館駅前のメガネ店でフレームを至急で交換してもらい、レンタカーを返却し、北海道・東北新幹線で戻る。何はなくとも予備の必要を再度実感した山歩き。

5/27(土)東京都三宅島1山「雄山」5:15~9:00(3:45)活火山で入山規制あり、規制境界まで歩く。フェリーで鑄ヶ浜入港しバス移動。富賀神社バス停より林道雄山線。舗道坂を進み終点が境界。小高い七島展望台へ。ピークは2男山で、雄山・海の眺め良い。風・青空等心地よい。境界環状道路・南戸林道を経て鑄ヶ浜に戻る。途中木苺がシーズンで食べ放題で過去の噴火の溶岩層等確認。雄山は、緑の生える山稜を遠望。晴れて波は穏やか。これで「関東地区踏破」。

・5/28(日)福井北2山「浄法寺山」山頂 14:55「丈競山」同 15:20 13:35~17:35(4:00)青少年旅行村駐車場より往復。遅い出発だが、駐車場の車多く人気の山。途中沢山の登山者に会い挨拶。冠岳コースより整備された道を辿る。階段・急坂・ロープ道を淡々と登り、(冠岳)山頂。広場の山頂で山々の眺め良い。一旦下り、上り返して進むと浄法寺山山頂。二等三角点・展望台あり、山々・平野・海の眺めよい。陽光心地よい。稜線を下り、上り返し進むと丈競山山頂(南)。避難小屋・表示板のある広場の山頂。さらに下って登り返して尾根を進むと(北丈競山)山頂 15:45。三角点あり、海・平野・歩いてきた山々の展望を楽しむ。陽光浴び一息。来たルートを着実に辿り、急坂の冠岳コースは慎重に下って戻る。これで何とか2500名山通過。

6/3(土)4(日)北陸遠征岐阜西2山、福井北2山

・6/3 曇りのち晴れ「金草岳」8:30~12:00(3:30)冠山峠より往復。峠の冬季閉鎖が解除され車が駐車場には車が数台あり。曇りの中、出発。整備された道を進み、一旦下ってゆく。登り返すと別の尾根ルート合流を経て桧尾峠。あとは稜線歩きで徐々に高度上げてゆく。下山する地元の登山者に会い山々の長話。急坂登り、表示板のある(白倉岳)。南側は急斜面。さらに稜線を行くと間もなく、金草岳山頂。二等三角点、笹が刈り払いされた平坦な広場の山頂。雲で視界なし。藪を攻める若者の声を耳にしつつ、来た道戻る。数組の登山者に挨拶。徐々に天候回復し、峠に戻ると冠山の岩峰が見え、峠も車・人出で賑わっていた。

・「釈迦嶺」晴れ 13:10~16:25(3:15)藪山、ウソ越より旧林道等を往復。山菜取り終えた地元の人に林道を教えてもらい、上の旧林道を進む。テープ・灌木伐採等で歩き易い道を進む。途中よりテープ等不明になり進むと、沢で先への道らしき不明。止む無く沢手前の獣道を登る。沢の間の急坂を木等に掴まりつつ進むと尾根稜線。テープあり。尾根伝いに道らしき続き安堵。尾根道を笹等掻き分け進む。背丈以上の笹等掻き分けて平坦な尾根。踏み跡らしきを辿り、笹藪に惑わされつつ南へ進む。笹藪歩きに疲れた頃、ブナ帯となり歩き易くなり間もなく釈迦嶺山頂。三角点あり、ブナ・笹の中の刈り払いされた平坦な山頂。今春苦労して歩いた千回沢、不動山、笹ヶ峰等の緑の山々が見られて大満足。下りも来たルート辿るが、途中大きな沼で来た時と反対側の西藪掻き分け本道に出たが先の笹藪は窪地まで出たが後は、来たルート不

明で別尾根を進み、木に登り行く方向の間違いに気づき、取り敢えず、北の方向へ一気に木等に纏まり下ってゆく。沢に出て、少し下って行くと獣道らしきと来た風景が重なる。最後は来た獣道に戻り、沢手前の旧林道口に無事戻る。稜線尾根道の入口は不明のまま、あとは悠遊と来た旧林道に戻る。これで、難関と見て何シーズンかかるか予定が立たなかった岐阜県の山を遂に踏破。北アルプス含む飛騨山系・奥美濃の深い道のない山々を歩き通すことができたことが不思議で仕方ない。兎にも角にも先人への感謝以外言葉はない。

・5/4 曇りのち晴れ「越前大日山」5:35～11:35(6:00)R417 奥の林道通行止めより往復。車で林道をブルの通行止めまで進み駐車。工事中の林道を進み、登山口より、沢筋歩きして大日峠。尾根を進むと急坂の笹道で、ロープ等ある。淡々と進むと越前大日山(越前甲山)山頂。二等三角点、灌木・低い笹の平坦な広場の山頂。雲で視界今一つ。道あり先へと加賀甲を目指す。尾根稜線は、きれいに整備された登山道で軽快に進む。分岐に出て、右へ進むとすぐ昨秋訪れた大日山山頂(7:55)。地元の人と山話して分岐に戻り、西へと下って行き、暗部より登り返して進むと大日岳避難小屋のある(加賀甲山:8:25)。小屋で一息入れ霧雨の中、分岐へ戻り、来た稜線尾根をブナ等楽しみながら進む。登山者多く、越前大日山は、地元の登山会で大勢の人々。すぐ下山へ。淡々と下り、地元の人に来年の国体に向け整備されているR417 等の話を教えてもらい戻る。

・「保田経ヶ岳」11:40～13:40(2:00)保田登山口より往復。堰堤経て沢沿いの道を進む。下山の人に挨拶し山情報聞く。鉄塔巡視路がメインの道で階段も整備され歩き易い。日差し強い中淡々と進み、2つ目の鉄塔を進むと経ヶ岳山頂。二等三角点、樹林の中の平坦な山頂。来た道戻る。途中、今日歩いた大日連峰の山々、白山連峰が晴天のもと、見えて満足。沢歩き楽しみながら戻る。今回はここまで。

6/10(土)11(日)北陸 福井北4山 天候の関係等で短い山歩き。

・6/10 曇り「取立山」18:45～20:25(1:40)東山いこいの森口より往復。天候雨でゆっくりドライブし雨止んで登山口着。日が長いのでドライ。整備された林道・登山道を急ぎ足・2本の愛用の杖で進んで行く。なだらかな道で夕焼けを背に一目散に進み、取立山山頂(19:30)。三角点ある丘の平坦地の山頂。薄暗い中かすかに白山連峰等の山々の眺め良い。ライトを準備し急ぎ足で来た道戻る。途中木立の暗闇もあったが、何とかライト点けずに登山口まで戻る。日が長いせいか20時過ぎでも薄い闇である。

・6/11 晴れ「鷲ヶ岳」4:50～7:05(2:15)登山口探しに迷い集落奥の神社近くの駐車場より往復。整備された道を案内表示を頼りに軽快に登る。林道へ出てしばらく林道歩きし終点より、急坂・稜線尾根経て鷲ヶ岳山頂。三角点・南北朝の古戦場碑ある広場の山頂。九頭竜川・街並み・白山連山等の山々が朝日の中、パノラマを描いて、この上ない情景を満喫。来た道を林道は少しショートカットし急ぎ足で戻る。

・「大長山」山頂 9:45「赤兎山」同 11:05 8:15～12:10(3:55)晴れ 小原駐車場(約30台の車でこの時期人気の山、環境協力金 300 円払う)より往復。整備された道を小沢・ブナ林楽しみ進み小原峠。直進で道の間違いを教えてもらい左へ(西)。稜線をアップダウンして進み 1P(荊安山)。表示柱あり。平坦な稜線を淡々と進む。早出の下山者に挨拶。急坂経て進むと大長(ダイチョウ)山山頂。二等三角点あり、平坦な丘の山頂で先も道が続く。晴れて白山連峰が間近に眺められ、ほかの山々の眺めも良い。一息入れ、来た道戻ると途中追い抜いた登山者に早いネと云われ自己満足。好天のもと軽快に進み小原峠へ戻る。先へと稜線の急坂登り、雪渓等楽しみながら進むと赤兎山山頂。三角点あり、広場の山頂で、展望楽しみ昼食。木道の先まで進み赤兎避難小屋を遠望して戻る。再び小原峠にも戻り、心地よい天気の中にブナ森林浴・沢水等楽しみつつ戻る。大半の車はそのままだった。これで白山連峰等奥深い山々を抱える石川県を踏破。

6/17(土)18(日)福井北3山晴れ

・6/17「法恩寺山」15:00～19:30(4:30)平泉寺駐車場より往復。白山開山1300年の幟が立つ駐車場より広い参道経て、神社を拝み、奥社近くで地元の方に登山ルート確認して進み獣避けゲート。開けて左へ進むと登山口で沢沿いに草茂る道を辿る。植林地から尾根合流点。あとは整備された道を進み、1P(三頭山):三角点ある広場の平らな山頂でスキー場の眺め良い。先へと平坦な道を淡々と進み、林道に2回出会い進むと避難小屋。地元の方が宴会中。整備された階段を進み、途中よりスキー場最終リフト経て登山道に出て、尾根を戻るように登り返すと法恩寺山山頂16:10。三角点あり、方位盤ある平坦な広場の山頂で、経ヶ岳、白山連峰、赤兎等山々の眺め良い。下りは、尾根登山道を戻り、スキー場へ出たところからは来た道を急ぎ足で軽快に戻る。途中夕日眺め、日没でも、日の長いことを確認しながら下る。分岐より整備された劔ノ宮へのルートを一気に下る。獣よけフェンスを開け閉めして平泉寺の静かな佇まいを堪能しつつ、まだ明るい薄暮に戻る。

・6/18「银杏峰」5:20～9:45(4:25)いこいの森駐車場より名松新道・小葉谷コース周回。整備された遊歩道・水場経てなだらかなブナ林帯を進んで行くと1P(银杏峰前山:大野の街並みの眺め良い)。さらに緩やかな尾根を進むと平坦な山頂部。くねくねとした道を辿り、ピークが银杏峰山頂。三角点、祠あり、山々の眺め良い平坦な山頂で風あり。先へと平坦な道を辿り、極楽平。急坂下り、林道に出てそのまま林道歩きし戻る。登山者多く、車も何台かあり人気の山。

・「部子山」11:20～11:40(0:20)林舗道を車で進み終点がP0の登山口で、遊歩道歩いてすぐ部子山山頂。二等三角点、祠あり、手軽な山で登山者多い。虫多く、すぐ駐車場に戻り、旧神社跡を散策。これで白山主峰の両白山系は終了。

○あと残りの山々は、敦賀以西・以南と北海道で、現居住地からは、移動距離・時間・費用的に限界が近づき、山行記録を掲載できる回数等かなり少なくなると思われます。

### 北海道シリーズ第3弾

・6/24(土)、6/25(日)道南3山 新幹線・レンタカー利用

・6/24「長万部岳」晴れ 13:25～17:30(4:05)林舗道終点到に駐車し往復。砂利の林道を進み、ゲート。車1台あり。林道進むと地元の方に会い挨拶。山歩きではなさそうで、山の情報教えてもらう。林道進み屈曲点で登山口の模様。そこから合目表示を頼りになだらかな登山道歩き。草丈を少しかき分けしつつ進み、5合目で椅子・テーブルのある休憩地。ここからが山道。沢沿いに進み、トラバース気味に尾根に出てザレバ等経て北峰、さらに進み長万部岳山頂 15:30。三角点ある、平坦な広場の山頂で、山々の眺め良い。下りは、来たルートのダケ・ブナ林等楽しみながら戻る。

・6/25「横津岳」4:45～6:25(1:40)林舗道ゲートより往復。レーダー基地が山頂なため、ずっと舗装道路歩いてすぐ横津岳山頂。平坦な山頂で、駒ヶ岳の眺め良く、風も強い。朝日あり。並びにある烏帽子岳目指したが、草露でかなり濡れるため途中断念(30分ロス)し来た道戻る。

「恵山」8:35～10:20(1:45)火口原駐車場より往復。広い駐車場に車なく、視界不良。管理道経て権現堂コースを進む。整備された登山道を火山ガスに注意しながら淡々と進む。火山岩帯だが、意外と夏ゼミの音が賑やか。すぐ山頂 9:30 で登山者4名に挨拶。火山岩の山頂で、蒸し暑く、虫も多いため、奥の大権現神社拝み、来た道辿り途中ショートカットして戻る。視界が中腹の噴煙まで見えてきた。向かいの山へ。整備されたコースを下り、分岐より右回りから左回りを周回。蒸し暑い中、急坂経て((海向山)山頂。二等三角点、視界今一つで虫多くすぐ下山。一旦下り上り返して下ると分岐。橋渡り上り返し駐車場に戻ると、恵山の全貌(中腹は噴煙を上げている)が見れて大満足 10:20～12:00(1:40)。

・補足の山歩き 渡島駒ヶ岳 以前は、噴火等のため、規制でゲートまで。今回 6/1 より馬の背まで入山できることから、山歩き。14:10～15:30(1:20)5合目駐車場より、時間を気にしながら、急ぎ足で急坂を合目・

距離表示に助けられて一気に登り、馬の背山頂。左右奥共にロープで入山規制。若者登山者3名に挨拶し、大沼と緑の平原の大展望を楽しみ、急ぎ足で来た道戻る。

新日本山岳誌以外編(1山)7/9(日)

・福島 安達太良連峰(船明神山)山頂 10:45 6:55~13:50(6:55)新野地温泉登山口駐車場より往復(15 km+アルファ)。ブナ子の森経て鬼面山・下り登り返して箕輪山さらに下って登り、避難小屋経て鉄山さらに稜線を進み、安達太良山。縦走コースを歩く。帰りは、途中寄り道(0:30)して岩峰の(船明神山:祠あるも崩れ掛けている)山頂。連峰等の眺め良い。本コースに戻り、淡々と戻る。雪溪末端の冷水で喉を潤し、シャクナゲ・ハクサンフウロ等楽しみ、最後ブナの森を散策して戻る。今まで単発の往復の山が今回の縦走で線となった。鉄山以南は登山者が多く、鬼面山から安達太良山までトレランの練習する人もいた(約3時間強)。

北海道シリーズ第4弾 7/14(金)休みもらい移動。

○7/15(土)日高中部1山「イドンナップ岳」3:45~16:00(12:15)晴れ 新冠ダム林道ゲート開放で登山口まで2km表示のあるの渡渉(長靴歩き)し、急坂作業道進むも踏み跡消え、止む無く草の茂る旧作業道をトラバース。先に道なく、笹原をトラバース気味に横へ進むと本道に出会い安堵。作業道を笹をかき分け進み尾根。そこからは、道あるが笹覆う道で日高のダニに注意しつつ進む。第一、第二の岩場の急坂経て尾根を進む。笹のトラバース道が続き、急坂を登ると、這松が現れ間もなく(新冠富士)山頂。晴れて日高の山々の展望(幌尻等)楽しむ。先へ進むが這松藪のため、荷物デポしサブザックにて進む。好天で体力消耗。ゆっくり進む。途中道迷いしつつ、本道に戻り、イドンナップの二等三角点で一息。這松帯の2ピーク経て念願のイドンナップ山頂 10:10。ついにここに来て大満足(3度目の正直:過去2度ゲートに阻まれ、苦戦)。過去に登った日高の山々の大展望楽しむ。暑いのですぐ下山開始。途中お花畑見る余裕あったが、チクリと腹に痛み。長袖を着つけたが、効果なく、三角点で、お腹を刺したダニを除去。暑さで疲労増し、這松藪で少し迷うがすぐ本道に戻り、新冠富士に戻り、一息。ダニを調べて除去し出発。暑さと疲労でややペース鈍るもズボン等のダニは逐次払いのけ下る。少しフラつき2度笹トラバースで足少し踏み外す。長靴歩きは靴連れ、豆等で恐々の歩き。岩場の登り返しはゆっくりしか進めない疲労度。急坂岩場を慎重に下り、笹をかき分け進み何とか作業道出会い。ダニを払い、長袖シャツ脱ぎ、初めて半袖シャツ歩き。いつもの軽快な歩きも足は、長靴底の豆が痛む状態でゆっくり歩き。作業道下り、沢経て、林道に出て、2度ダニチェックし無事戻る。何とか無事戻れた。これでアプローチの長さ、這松・笹藪、ダニ等に苦戦した日高山系を何とか全て踏破でき、感慨無量。ただ、車で着替え、ダニ2匹に右腕噛まれすぐ除去したがあと残る。砂利遠距離移動後に「とねっこの湯」で全身見るとさらに顔の顎に1匹、右首近くに2匹。噛まれており、すぐむしり取ったが、あと残る。身体的には、大ダメージとなった。

・7/16(日)道央1山「有珠山」4:40~8:00(3:20)天候予報大雨注意のため、早めに行動。移動等に加え暑さであまり眠れず。高速道路高架下の駐車場より往復。有珠山は活火山のため、入山規制あり、行けるところを歩く。遊歩道の樹林帯進み、蚊に追い立てられように淡々と大汗かきながら進み、林道経て明るい樹林帯に出て蚊の追及を逃れ、進むと稜線。左へ行くと有珠外輪山展望台。一部噴煙上げる有珠連山の雄大な眺めに浸る。海・港・集落の眺めも良い。外輪山を右へ移動し、下り進み鞍部まで階段を下り、長い階段を上り返し進むと火口原展望台。入山できる最高点。先にケーブルカーの山頂駅見え、間近いに有珠の溶岩岩峰見え、圧倒される。雲行き怪しく、急ぎ足で来た道戻る。稜線分岐はまだ明るく、淡々と遊歩道を一気に下り戻る。

その後雨が本降りとなり、今回はここまで。

## 北海道シリーズ第5弾

○大型夏季休暇取り、山入6日、7山(13山)

### その1

○7/30(日)道東1山「天望山」4:40~7:45(3:05)晴れ 然別湖登山口より周回。整備された道進み、途中一瞬エゾナキウサギに遭遇。すぐ巨岩の(白雲山)山頂。山々、然別湖の展望、朝日が心地よい。鞍部へ下りてゆくと草露で、見る見るうちにズボン・長靴もぐっしりに。鞍部で下の雨具つけるももう遅い。上り返して進むと天望山山頂。三角点あり、山々、湖の展望あり。鞍部に戻り、然別湖への遊歩道経て戻る。その後、ウペペサンケをトライしたが、時間切れで尾根末端で断念し戻る。9:50~18:15(8:25)糠平登山口より林道少しは入ると工事通行止め。林道歩きし、崩壊通行止めを横目に直進。沢の崩壊に出て、ピンクテープ辿る。笹藪を漕いで上へ上へと進むと何とか林道出会い(11:40)。右へ進むも小1時間であきらめ元の出会いに戻り(14:00)2時間ロス。反対側の林道進むとゲート経て旧登山口(上っている気配ないため断念)。さらに林道進むとトン袋あり、正式な登山口(14:10)。とりあえず上へ上り尾根末端まで登ると 15:30。今日は無理と断念し下山。登山口へ戻り、林道の凄まじい崩壊現場4か所確認し(何とか通行)崩壊通行止め口経て戻る。

○7/31(月)「ウペペサンケ山」曇りのち雨 5:15~15:45(10:30)昨日のリベンジ。工事通行止め口より林道歩き。4か所の崩壊地は昨日歩いているので難なく、通過し登山口 7:15。昨秋以来入山の記録なし。最後の水場を楽しみ、昨日の尾根末端へ。小雨となる。草露で普通の登山靴は濡れて来たが進むしかない。草木かき分け鞍部へ下り、上り返しは、上にも雨具つけかき分けかき分け進むと 1P。下り登りし平坦地経て急坂登ると一等三角点のある(糠平富士)。ここがウペペサンケと書いてあるが先に最高点あり、尾根を下り登りし、幾つかのピーク経てウペペサンケ最高点本峰。雨で視界今一つ。すぐ下る。糠平富士経て来たルートを淡々と下る。雨・草木払い等で疲れたが何とか尾根末端。急坂一気に下り登山口。雨本降り下山時刻記載もやっと。林道は雨での増水懸念したが、さほどの増水にならず、無事崩壊地通過し戻る。

○8/1(火)道北大雪山系2山「北鎮岳」山頂 9:05「愛別岳」同 11:50 6:30~16:25(9:55)晴れ 層雲峡ロープウェー・リフト利用し往復。リフト終点より黒岳・石室経て進む、縦走路と北鎮分岐。急坂経て北鎮岳山頂。風あり、岩々の平坦な山頂。雲で視界今一つ。先へと尾根下り、溶岩岩峰の(鋸岳)経て進む急坂登り(比布岳)。先の荒らしい山が目指す山かと両側ガレ、崖の道を只管進み、分岐。登ってきた地元の登山者に目指す山の所在と入口を確認。稜線を通過した途中から下るとのことで、一部下に尾根が見えて安堵。先にピーク1つあり踏み(安足間岳)戻る。稜線に戻り、比布との中間位に2本のピンを確認。倒れている金属板を返すと赤字で愛別岳とあり、急坂のザレバをストック等使い慎重に下り、稜線歩き。巨大な岩塊を右から急坂を慎重に上り回り込んで進むと愛別岳山頂。三角点ある平坦な山頂。晴れて上に比布からの稜線を見上げることができ満足。来た道戻る。ザレバの急坂は慎重に登り、稜線。後は来たルートを淡々と戻る。石室より先の小高い山(桂月岳:溶岩岩の山頂)へ登り、黒岳、リフト・ロープウェー経て戻る。

## 北海道シリーズ第5弾

○大型夏季休暇取り、山入6日、7山(13山)

### その2

○8/2(水)道東2山

・「藻琴山」6:40~8:30(1:50)晴れ ハイランド小清水 725 より往復。頂上付近は雲がかかる中、整備されたなだらかな坂を進み、草露を気にして 1Pで下の雨具付け進み大きな広場経て藻琴山山頂。ブロックで保護された一等三角点、標高 1000mの記念の山。登ってきた稜線の緑が朝日のもとキレイに見えて大満

足。来たルートは淡々と戻る。途中、一番の遅咲きサクラの実を摘まむと手は鮮やかな紫色へ。登山口に戻ると地元の方が、手軽で人気の山で、今日は曇っていたが、屈斜路湖、海まで見えるとのこと。天候次第だがお薦めの山。

・摩周岳」10:05～15:35(5:30)第一展望台登山口より往復。摩周湖の外輪山の稜線尾根をアップダウンし進む。草原が心地よい(アブ・ハチの虫なければもっと良いが)。西別分岐よりダケカンバの樹林帯進み、巨大な岩峰を右から整備された道回り込み摩周岳山頂。先客あり、摩周湖の眺め楽しむ。虫多く、蒸し暑くてすぐ下山。西別分岐より左へ。平坦な道からなだらかな坂を経て1P(又牛別岳)。さらに稜線進み(西別岳)山頂。二等三角点、丘の山頂で、雲で視界なし。来たルートを淡々摩周湖の景観・草原楽しみながらと戻る。

○8/3(木)晴れ 道東知床の硫黄山目指したが、途中で断念し戻る。

8月1日からお盆前までカムイワッカまでの砂利林道ゲートが臨時の通行止め。思案の末、羅臼岳の岩尾別登山口より縦走ルートでトライ。6:00～19:30(13:30)木下小屋を経て整備された道進み、清水で元気を出し、羅臼平 8:35 で一息入れ、縦走ルートへ。陸自の遭難対応訓練日で何人か見かける。(三ツ岳)を経て下り幕営地。高山植物楽しむ。(サシルイ岳、オッカボケ岳)を経てハイマツ帯に苦しみ悲鳴上げつつ(南岳)。さらに進み(知円別岳)分岐 12:55 でタイムアップ。やむなく過ごしてきた山頂確認しつつ、来た縦走路戻る。二ツ池で幕営の2人に挨拶し山話。雪溪の沢水楽しみ、羅臼平 17:30。後は長く続く下山路を只管歩き、薄暮に木下小屋着。

○7/4(金)「硫黄山」4:00～13:40(9:40)晴れ 昨日のリベンジ。ゲート脇に車止め、長い砂利林道歩き(11 km)。気持ちを切り替え、知床の原生林を確認しながら只管林道歩き。カムイワッカの滝バス停につき安堵。林道通行・入山許可申請を提出し先の硫黄山登山口へ。熊の日撃情報依頼の書類あり。整備された道進むと、ガサゴソと物音。熊の領域に入ったようだ。旧硫黄採掘跡、新噴火口等を経て、ハイマツトンネル、トラバースを経て沢に降りる。後は赤テープ確認しつつ、水のない沢歩き。滝・段差等幾つかあるがそれなりに慎重に登り進む。ガレバで道不明に。左のガレバ進むと下山者が右の沢を降りて来る。沢に引き返し挨拶しお礼述べて、沢を詰めて尾根へ。縦走路進むと3つの大きな峰。どれが山頂か不明。手前の岩山を降りて来る2人に硫黄山か確認。その2人の下る山へ急坂の岩々を登る。下ってきたのは、昨日会った縦走の2人で感謝し挨拶。岩々の急斜面を一気に登り、硫黄山山頂。一等三角点。平坦な岩の山頂で、昨日歩いた山々の眺め、知床の山々の展望を楽しみ食事し、急坂の岩々は慎重に下り、来た道を沢沿いに下る。先の2人に合流して山話しながら沢を下る。トラバース道の上り返しはきつそうで、それでも重い荷物で難なく進む2人。普通の山人ではなさそう。ハイマツ帯よりマイペースで急ぎ足で下り、採掘跡の先で、大きなヒグマに出会いビックリ。一声上げたら、熊は、山側の林に去り、ゆっくり下山路を通過して後は淡々と下る。先に会った縦走の人に追いつき、知床のクマ話を教えてもらう。性格は大人しいとのこと。登山口で熊情報を書き、監視員にゲートの車の件を話し、バスを経て五湖ゲートの警備の人に優しく諭された。

今回の北海道巡りの山歩きはここまで。人に恵まれ感謝。

8/19(土)20(日)福井西5山 晴れ

・8/19 「久須夜ヶ岳」13:00～13:15(0:15)エンゼルライン終点駐車場よりすぐ。久須夜ヶ岳山頂は、電波塔に取り囲まれ視界今一つ。一等三角点。駐車場から小浜の町・港の眺め良い。

・「青葉山」14:40～17:35(2:55)中山登山口より往復。整備された登山道を合流点・展望台を経て進むと青葉山東峰。神社あり、雲で視界なし。先へと稜線進む。巨大な岩の連続で、鉄梯子・ロープ等あり、スリル味わいながら進み、西峰。神社・小屋の上の岩山。山頂は高度感あり。麓の集落が絶壁より展望でき、千回も登った人記事あり、その気持ちもわかる。来たルートを稜線は慎重に進み、東峰を経て展望台で海を眺めて

戻る。

・8/20 「頭巾山」5:00～6:55(1;55)野鹿の滝奥の林道より往復。林道進み、途中案内より左の沢を越え登山口。つづら折れの植林地道を経て尾根。尾根を進み左に曲り進むと頭巾山山頂。二等三角点、祠のある細長い山頂。朝日、沢・鳥の声楽しむ。来た道に戻り、植林地はショートカットし戻る。

「八ヶ峰」7:45～9:50(2:05)染ヶ谷口より往復。林道歩きし入山。玉沢峠道と合流し、広葉樹林の見事な森を進んでゆく。いくつかの峰を経て八ヶ峰山頂。二等三角点、広場の山頂で、晴れて山々の展望楽しむ。来たルートを緑陰楽しみながら戻る。

「飯盛山」10:35～14:40(4:05)貝谷口より周回。登山口より道不明で、谷沿いの道らしきたどり、尾根を進み途中よりトラバース道。小沢でのどを潤し他ルート分岐・植林地・広葉樹の境界分岐表示経て急坂登り進むと飯盛山山頂。大きなシダ生い茂る平坦な山頂 11:40。シダをかき分け山頂表示等確認。二等三角点の表示あり。下りは来た道進む。ただ曲がる位置を間違えたらしく、林道の見えるところに出て、林道に降り、進むがどこにいるか不明。止む無く、急坂登り、稜線。どこにいるか不明で右往左往しつつ、尾根進む。行き先探せず、やむなく方向は、南へと進みつつ、急坂を下って行き、林道に出る。とりあえず集落までと林道を下り進むと獣ゲート。来た林道ではないが、1本先の林道で、県道に出れて安堵。車で上がった林道に入り登り返すと車のある駐車地に何とかも戻れた。下りは、予想した3倍の時間がかかり、改めて里山の怖さを実感。すぐ行けると安易に考えたこと、歩いた道を用意深く、反芻しなかったことが事態を厳しくしてしまったことを痛感。でも無事戻れてよかった。

8/25(金)休み取り関西の山歩き

・8/25 和歌山北2山、大阪南1山 曇りのち晴れ「摩尼山」山頂 11:30「楊柳山」同 12:10 高野山3山巡り。10:30～14:10(3:40)奥の院バス停より周回。様々なお墓を巡り、鎖ゲート経て林道進み、摩尼山案内表示より右に曲がり、ゲート経て砂利林道進むと間もなく登山口。淡々と登り進み摩尼山山頂。祠ある樹林帯の中の広場の山頂。視界今一つ。稜線をアップダウンしながら進むと「楊柳山」山頂。先客あり挨拶。祠の奥に三角点あり。広場の樹林の中の山頂。稜線進み下り子継峠より南に方向転換し平坦道・林舗道横切り登り返すと3山目の(転軸山)山頂。祠あり、ここも樹林の中の広場の山頂。方角に×印のある奥の院へ下って行く。奥の院まで下りたが後は道なく、さらりと参道に出て奥の院へお参りしてお坊さんの講和を有り難く少しだけ聞いて墓巡りして奥の院のバス停に戻る。

・「嶽山」16:50～18:55(2:05)近鉄汐ノ宮駅より往復。大まかな地図しかなく、地元の方に道を聞きつつ東のお寺目指す。城山ハイキングコースの案内に誘われ道を進み、オレンジ園。ここは違うと先へ下って進むと大きな舗装道路(同園入口)。左に曲がり舗装道路を淡々と上り進む。丁度宿も探していたところで、かんぼの宿の表示あり。上へと進みかんぼの宿で嶽山を訪ね城址後があると教えてもらい奥のテニスコート脇の道進むと城址後の碑のある嶽山山頂。表示板あり。樹林の中の平坦な山頂。かんぼの宿に泊まるか日帰り入浴したかったが、予算の制約と入浴しても駅まで歩き1時間のため、断念し来た道を一気に下って汐ノ宮駅に夕暮れに戻る。

○8/26(土)大阪南3山、和歌山北1山 8:10～17:15(9:05)「根古峰」山頂 9:40「南葛城山」同 11:25「旗尾岳」同 14:55「府庁山」同 15:50 曇りのち晴れ ダイヤモンドトレイル南端歩き。朝雨で時間調整し遅めの出発となる。南海紀見峠駅より岩湧山ルートを進む。長い平坦な林舗道歩きから急坂経て、岩湧山3丁目のダイトレ稜線出合い。少し稜線を西へ登るとすぐ根古峰山頂。平坦な丘の山頂でテープはあるが表示不明で、20分近く辺りを探し回る。特に表示見当たらず先へと西へ道進む。山道から林道(舗道・砂利道)歩き。長い林道歩き経て山道を進み笹をかき分け進むと一本杉の史跡。さらに笹かき分け進むと南葛城山山頂。樹林の中の平坦な広場の山頂。一息入れ、来た道戻り、岩湧山3丁目より急坂を一気に下り、

砥石谷林道経て天海駅に出る 14:20。時間あり、道不明な旗尾岳へ向かう。送電線への林道を辿り終点を左への山名の案内表示あり、地元の山の会に感謝しつつ、案内表示等頼りに急坂登ると旗尾岳山頂。樹林の中の山頂。地元の方の努力がしっかりと道と案内表示に助けられ稜線をアップダウンして進む。草丈が覆う中、かき分け坂を登ると府庁山山頂。田山・十字峠稜線の三叉路分岐にある山頂で稜線も草丈が覆う道のもよう。平坦な広場の山頂で陽光楽しみ一息。後は来た道を蚊に追われながら、一気に下り天海駅へ戻る。今日もカプセルに連泊。

○8/27(日)兵庫東1山「中山」6:55~9:25(2:30)晴れ 阪急売布駅より往復。朝早く出たが、電車のつなぎなく、乗り過ごし等で時間ロスし遅い出発。肝心な地図を忘れ、記憶の中での山歩き。駅員に道を聞くが知らず。コインロッカーもなく重い荷物を背負い、住宅地の坂を登り、下ってきた山歩きの格好の人に中山へのルートあるのか教えてもらう。あるらしいので取りあえず坂を進み、水源のあるバス停泉が丘北に着く。その先で行き止まりなため、散歩の方に中山奥の院への道を教えてもらう。すぐ先の直角道隅で橋を渡り道を辿るとすぐ参道。後は、参道脇の山道を進み夫婦岩。荷物を整え、本格的に登り始め、すぐに山頂への分岐。人が少なく静かで歩きやすく、淡々と進む。すれ違ったのは2人位で奥の院からの道に合流しアップダウン繰り返し登ると中山山頂。二等三角点ある平坦な広場の山頂。東側の山々の眺め楽しみ一息。後は奥の院へ参拝して、来た道を急ぎ足で売布駅に戻り、やまゆき会の恒例の歓迎バーベキュー例会に参加。

9/2(土),9/3(日)福井西3山

・9/2「多田ケ岳」13:00~16:55(3:55)妙楽寺駐車場より往復。曇りのち晴れ 林道を獣ゲート経て進み、表示に従い進むと石橋・滝のある登山口。橋を渡り沢沿いの道を進む。沢沿いの急傾斜地は、慎重に進み、不明なところは目印探しながら登ってゆく。植林地経て木に4本テープ巻きのところを尾根に進む。目印がなくなる。1P経て獣道・境界標の尾根を辿り進むと 2P。遙か奥に山が見え、尾根を下ると道らしきに合流。そのまま山腹の道を進む。山の麓で別ルートと合流し、急坂のつづら折れの道登ると多田ケ岳山頂。二等三角点。岩あるも木なく、小浜の街・若狭湾の眺めを楽しむ。一息入れ、来たルートを進む。尾根で本道分岐確認。沢に下る模様。登って来た2Pより下り1P。下り口探して慎重に尾根下る。尾根を歩き過ぎて少し戻ると目印の4本テープ見つけて安堵。本道はここからトラバースして山腹進む様子。あとは来た道確認しつつ、急斜面の沢坂を慎重に下って戻る。

・9/3「百里ケ岳」5:05~9:30(4:25)晴れ 上根来集落中央登山口より往復。神社経て、草道かき分け進み、林道出合い。林道終点で山案内表示あり、山入り。沢沿いの道らしきを辿り進む。植林地経て、尾根に出る木地山峠へのルートは道が掘れわかり易い。かやの峠より道は下るため、尾根を上へと進む。時折テープあり、道なのか。急坂経て進むと三叉路分岐。右へ高くなる方尾根を進むと平坦なピーク。(桜谷山)山頂。高島トレイル表示棒あり、南側に百里見える。案内表示を辿り、過ぎて来た峠分岐表示を確認し下ってゆくと木地山峠。4差路交差し祠あり。南の尾根へと進みアップダウンし、急坂登ると百里ケ岳山頂。一等三角点、高島トレイルの棒あり。平坦な山頂。先へ周回したかったが、タオル落とし来た道戻る。すぐタオル回収して峠へ戻り、本道の道へ。沢の方へ下って行き、急坂斜面をトラバースで登り返すとかやの峠。一安心し、あとは来た道を確認しつつ、林道に出て戻る。

・「若狭駒ヶ岳」10:30~13:40(3:10)河内のダム道舗道終点に駐車し往復。登山口の大きな表示の砂利林道進む。途中少し荒れているが、4駆ならいける道か。沢山落ちていた絞ると油の取れる植物の葉をとる地元の方に挨拶し、ゆっくりと散策する年配の方にも挨拶し進む。林道は荒れているとのこと。どの位に距離・時間かかるか不明だが、行けるところまでと旧森林公園を目指す。歩き易いがクネクネとした回り道の林道進み森林公園の広い駐車場。旧管理棟見え、管理道利用して先へと進んでゆく。管理道の終点近くで

やっとうけ岳登山口の案内。尾根を進み、木地山峠から(5.2キロmの表示)の分岐経て、ブナ等の広葉樹の森を楽しみつつ進むと若狭うけ岳山頂。三角点あり、小岩の山頂で広場。山々と琵琶湖の眺め良い。高島トレイルの棒あり。昼食後来た道を軽快に、途中ショートカットして戻る。今回はここまで。

9/9〔土〕晴 9/10〔日〕福井西5山

○9/9 れ「三十三間山」10:40～13:50(3:10)倉見登山口より往復。林道を獣ゲート経て進み、分岐より右への案内表示で林道進む。最終水場より植林地経て尾根を進み稜線へ。稜線は草原で、道を探しながら、テープ等に助けられ進むと三十三間山山頂。樹林の中の平坦な山頂で視界今一つ。虫多くすぐ下山。草原でゆっくり食事し展望楽しみ、幾組かのハーカーに挨拶し、来た道を一気に戻る。

・「雲谷山」14:10～18:20(4:10)三方石観音口より往復。お寺を参拝し、展望所の整備された道を第1、第2、第3展望所と進み雲谷山登山口 15:05。下山者にここから上り2時間下り1時間と云われ、急ぎ足で尾根をアップダウンし進む。下りの登山パーティーに今からと心配されながらも淡々と進み、分岐を経て雲谷山山頂 16:25。二等三角点ある平坦な山頂。樹林の中、北東側に山々・海の展望あり。来た道を急ぎ足で、ブナ林を楽しみながら登山口の第3展望所着 17:40。三方五胡の眺めを楽しみ、早足で戻る。

○9/10 晴れ「伝説のハイカー編」「大谷山」山頂 8:10「赤坂山」同 9:45「三国山」同 10:45 5:15～12:45(7:30)マキノ高原 調子ヶ滝の駐車地より周回。登山口分ならず、セラピーロード進むと調子ヶ滝で林道終点。道らしきあり滝の上に出る。先も滝が続き進行断念。止む無く、行けるところまでと沢渡り、急斜面の獣道らしい尾根を木・枝・岩探りながら慎重に登ってゆく。踊り場2カ所目で見事なブナ林に会い感動。獣の鳴き声を聴きつつ、雲で視界が乏しい中をを上へ上へと進み、ピークへ。雲で視界なくどこにいるのか不明。途中含め方向だけ北へ向かっていることを確認しつつ、草丈の少ない獣道を進む。鞍部経て先へ進むと本道らしきに合流し安堵 6:40。それでも方向定まらず、北へ行き雲で視界がない中下るため、引き返して南へ向かう。道はあるが草丈露でズボン濡れるため、下は雨具付け草をかき分け進むと高島トレイル棒の表示ある(寒風山:平坦な山頂、雲で視界無し)で位置を確認。南へと進みつつ鞍部に向かう。かや等の背丈以上の草丈をかき分けつつ、つづら折れの道を降りてゆく。鞍部より登り返すもまた、つづら折れの背丈以上の草丈の道でかき分け、かき分け進むと大谷山山頂。三角点あり、平坦な丘の山頂で、天候良くなり、陽光、日本海、山々、琵琶湖、集落の眺めを楽しむ。ただ、植物の小さい種で全身覆われ振り払いに苦勞。来た道を草丈のないところをショートカットし鞍部に出て登りは草丈のない直登の獣道を辿り本道に合流。寒風山経て進むと遙か先まで見える稜線で歩きを楽しみつつ進む。当初本道に出会った合流点 9:25を経て稜線進むと再び背丈以上の草丈をかき分け進む。1人大谷山に向かう人に挨拶しマキノ高原からの通常のルートに合流 9:35。あとは普通の登山道(かなりえぐられた道)を進み赤坂山山頂。三角点あり、展望楽しむ。下って登り返すと東側が崖の(明王の禿)。下って平坦なトラバース道を進み分岐より急坂登り進むと三国山山頂。三角点・岩のある広場の山頂で山々・琵琶湖の眺めあり。あとは来た道を引き返す。赤坂山は昼食時で登山者多し。分岐に下り、マキノ高原への整備されたつづら折れの道を軽快に下る。途中調子ヶ滝への分岐あり、そちらに進む。橋を渡ると標識あり、林道口にも登山道表示を確認。林道下ると登ったルートに出会い、表示のある林道を進まなかったため道が分からなかったことを確認し駐車地に無事戻る。福井側からは林道崩壊で入れず、滋賀側に回り大正解。大遠征のため今回はここまで。

9/23〔土〕24〔日〕福井西3山、京都北1山

・9/23「三国峠」山頂 10:35「ブナノ木峠」同 14:45 10:05～17:00(6:55)生杉駐車場より周回。ブナの森を経て進みすぐ三国峠山頂。三角点あり、高島トレイル棒ある丘の山頂。山々の眺め良い。稜線を少し戻り、尾根進み、地蔵峠へ下る。林道に出てすぐ地蔵峠。ゲート越え林道下り、中山の林道分岐・橋を渡り少し

南下し小さな堰の上部を渡渉し獣道・急坂経て尾根に出て進むと巨木が近くにある(八宙山)。さらに稜線をアップダウンし進み、傘峠(平坦な山頂で白テープに表示あり)。その先は表示等ないため最初 p から道間違えし戻り左の尾根へ。その先で6名のパーティーに会い挨拶。お互いにこんなところで登山者に会うとはという感じ。先に尾根を進めるが方向違いに気づき戻る。間違えた地点を確認して西へ。道らしきあり尾根伝いに進み、山の見える尾根へ方向転換し南下。急坂進みブナノ木峠山頂。三角点あり、晴れて陽光心地よい。樹林の中の丘の山頂。来た道戻り、一気に道を下るとしっかりした道と山の方向表示あり。目印の棒を目安に一気に下ってゆくと三叉路林道の登山口。あとは林道を巨木・沢・緑を楽しみつつ急ぎ足で下り、入山の渡渉点過ぎ、中山で橋渡り、林道分岐。その真ん中に旧道・獣道らしきあり、トライ。急坂を登り尾根。東へと尾根を進むとようやく案内表示(地藏峠・岩谷峠の中間のピーク16:15。三国山を目指そうとしたが、時間切れ。已むなく撤退し、地藏峠に一気に下る16:35着。林道を下り生杉駐車場に無事戻る。

・9/24「乗鞍岳」5:10~8:25(3:15)R161 旧スキー場近くの送電線口より周回。薄暗い中送電線の道を登り鉄塔。先は道が奥へと下って進む。下った先から道不明となる。止む無く送電線の見える方向へと獣道らしきを小藪・茨に大苦戦しながら、上へ上へと登ってゆく。ようやく刈り払いされた送電線に出て上へと進むと立派な道に出会いそのまま登ってゆく。途中高島トレイルと合流し稜線尾根へ。あとはアップダウンしつつ、進む。途中左へと表示に従い急坂経て尾根を進むと乗鞍岳山頂 7:10。二等三角点、施設建物のある平坦な灌木・草丈の山頂で陽光あり。来た道戻る。途中、朝日・琵琶湖・山々の眺め楽しみながら下る。高島トレイルへ下るも、雨で彫られて、岩がむき出しで歩きにくく、途中より登山道らしきを左に下ってゆく。立派な道を下り、広い切り崩しに出るも、道不明となり急な崖。止む無く樹林帯と崖の境界を慎重に下り、広い空き地に降りる。採石場跡の施設のように。すぐR161へでて、方向を確認し少し北へ進むと鉄塔入口の駐車地に無事戻る。

・「野坂岳」9:05~11:35(2:30)少年自然の家上の登山口より往復。多くの車が駐車し人気の山。整備された道を淡々と登り、一ノ岳、二ノ岳、三ノ岳経て登り進み、避難小屋経て野坂岳山頂 10:30。広い草原の山頂、一等三角点、多くの登山者あり。敦賀湾、琵琶湖、遠く伊吹等360度の大パノラマ楽しむ。下りは、ブナ林・沢水楽しみつつ一気に下って戻る。

○これで、奥越の難山を持つ福井県を踏破。あと残すは、北海道・近畿以西となる。現居住地からでは、時間・体力等が限界に近いとため、ゆっくりの山歩きとなる予定。

9/30(土)奈良南1山「和佐又山」晴れ13:30~14:05(0:35)和佐又キャンプ場より往復。やまゆき例会に参加し、貸切バスで到着後、テント設営してすぐ獣ゲート 2 つ経てなだらかな道を登るとすぐ和佐又山山頂。三角点あり、岩・大木のある丘の山頂。済んだ青空に山々の眺め楽しみ下山し、ロープワークに遅れて合流。テント泊。

・10/1(日)新日本山岳誌以外編 奈良南3山 例会に参加。6:10~15:30(9:20)。笹の窟の絶壁下で湧き水の雫を見て、急坂経て山道より案内表示のある急坂登ると(小普賢岳)山頂 8:50。樹林の中に表示板あり。その後2度目の大普賢岳で食事。天候曇り。後は大峰奥駆道進む。水太視経て(弥勒岳:尾根ピークの岩のある山頂)10:40、さらに(国見岳:急坂登った細尾根境界標のある山頂 11:05)経て2度目の七曜岳 11:55。急坂慎重に下り、道を確認しながら、沢に下り、滝を見て沢を下ると、沢・洞窟探検の大人2人と子供たちがゾロゾロ出て来たビックリの無双洞・その下に水簾滝。トラバース気味に進み、岩の急坂を慎重に登る。一息入れ、トラバースして大木のある最初の登り口を経て急ぎ足でキャンプ場に無事戻る。大峰の奥深さを垣間見れて例会主催者に感謝。

・10/7(土)、8(日)白山美濃禅定道往復。参加者辞退あり、1人ぼっちの例会(?)。白山開山1300年で実施。石徹白口より別山経て南竜山荘泊(小糠雨でもかなり濡れた)7:30~15:55。(8:25)。10/8 3:35~

15:30(11:55)トンビ岩コース経て室堂。ムーンライトウォークで御前峰で御来光。お池めぐり経て中宮道分岐より大汝峰往復し室堂に戻り、来た道戻る。晴天で山々の眺め・紅葉・ブナ林大いに楽しみ石徹白口に戻る(詳細は例会報告で)。

#### 新日本山岳誌以外編

##### ・10/15(日)岩手北1山

(二ツ森)9:00~13:50(4:50)根反公民館先の林道橋(こねぞり橋)より往復。盛岡の山の会の例会で同会21名、地元の仲間の登山者7名の総勢28名でハイキング。林道歩き長く、道も地元の方の協力で刈り払いされ歩きやすいが所々ぬかるみのなだらかな道を進む。鳥居をくぐり進むと二ツ森南峰。三角点・祠あり、樹間より山々探訪。本道に戻り、草等分けて進み再び鳥居をくぐり進むと北峰。表示板・祠あり。本道に戻りゆつくり昼食後来た道を散策しながら戻る。岩手県の山の新本に掲載された双耳峰の山。紅葉深まる里山で案内してくれた地元の登山者に感謝。

##### 11/2(金)11/3(土)3連休で大峰・大台山系へ大遠征。

・11/2 晴れ三重西1山「三津河落(サンスノウチ)山」9:20~10:55(1:35)大台ヶ原手前2Km確認し案内もあり。急坂下り、笹原を登り返すと三津河落山山頂。岩・樹林の中の山頂。先へと進むと境界から尾根が伸びた分岐でここにも山頂標識あり。笹原の稜線進むと(大和岳)。平坦な山頂で心地よい晴天のもと山々の展望楽しむ。登山者2組に挨拶。来た道戻ると車道は車の駐車繋がっていて驚く。この山で三重県を踏破。本州は、近畿以西のみとなり感慨に浸る。この後山を探して、車で探すと山探索歩きで2度目の大和岳山頂等で大幅に時間を喰ってしまった。

・奈良南4山「経ヶ峰」12:25~40(0:15)大台道路より表示ない中、稜線進みすぐ経ヶ峰山頂。二等三角点、樹林の中の山頂だが、樹間より展望あり。

・「黒石岳」13:00~14:40(1:40)道を探して駐車し山容確認して大台道路進み、1P(表示石あり)より下り、作業広場に出て、作業道をドンドン下ってゆく。道を離れて稜線進み、さらに急坂下り、作業道三叉路分岐。林道進み、稜線に入り、細尾根・枯れ笹の急坂登ると黒石岳山頂。表示板沢山あり、樹林の中の稜線の山頂。少し山々が見える。来た道を登り返して戻る。

・「辻堂山」15:30~15:55(0:25)登山口を探して道路脇に案内表示より入山。落ち葉の稜線を進むとすぐ辻堂山山頂。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。

・「伯母ヶ峰」16:20~18:00(1:40)大台口トンネル近くに駐車しトンネルを通り、林道ゲート口より往復。時間が遅くなり、行けるところまでと出発。朽ちかけた木の梯子階段登り、道らしきと獣道を上へと進み稜線尾根。道あり、植林地経て、急坂、幾つかのピーク経て電波塔。さらに次のピークへと進み伯母ヶ峰山頂 17:15。樹林の中の尾根の山頂で三角点、展望もあり。夕暮れとなり、急ぎ足で下山。途中でライトつけて急ぎ足で稜線を下る。大台からの帰りの車のライトでトンネルを確認して薄暗い中、無事戻る。

11/4「白鬚岳」7:00~11:35(4:35)曇り 頂上への最短と思えた北尾根ルートより往復。道は林道崩壊で中奥水源地駐車地に駐車し、丁度居合わせた近くの大鯛滝への沢登り・写真撮影の方に林道等教えてもらい出発。林道進むとすぐ崩壊現場が現れる。土砂で崩壊し手のつけられない状況で最近の登山者の気配はない。植林地への旧林道を順に進み、土砂、岩石の崩壊等経て進んで行く。終点に昔の北尾根登山口の表示あり。道らしきを探しつつ、獣道を辿って斜めにトラバース気味に登ってゆき稜線尾根。光が足りないのか黄色の紅葉多い。稜線尾根を進み、急坂経て長尾のやせ尾根 1P。位置を確認して、稜線尾根を進む。トラバース道・ヤセ尾根・岩々等の幾つかのピークを経て進む。途中よりテープ等案内出て安心して歩く。急坂の獣道を左から回り込み、白鬚岳山頂。二等三角点、今西錦司氏の1500山目の石碑あり。途

中より出た案内表示(中奥林道奥詰口)が少し理解できた。曇りで西側遠くに微かの景色が見える。ただ南西は絶壁の斜面。案内表示頼りに下ってゆく。稜線でその表示の分岐を下ってゆくが、来た道より奥に下ってゆくと後が心配で止む無く、来た尾根稜線に戻り、ルートを確認しながら慎重に下る。しかし、途中からルート不明となり、斜め下、下へと下ってゆくと林道終点よりかなり先の林道に出て安堵。旧林道辿り水源地Pへ無事戻る。

・「青根ヶ峰」14:05～18:00(3:55)連休で吉野の林道は通行規制。止む無く下千本の大駐車場より往復。舗装道路を売店・食事処等の賑わい・多くの人手を見つつ、中千本、奥千本へと進む。途中、(高城山)で展望と今が盛りと燃える紅葉を楽しむ。さらに進み奥千本バス停より坂を登り、金峯神社参拝し、少し山歩きするとすぐ青根ヶ峰山頂。ベンチ、三角点のある樹林の中の山頂。先に舗道進み、町村境界表示より引き返す。奥千本よりバスに乗車したが、待ち時間あるため諦め、急ぎ足で下ることに。暗くなる前に集落の明かりに出た。薄暮の中、まだ下って行く車・人がいることを確認しつつ、下千本の駐車場に戻る。駐車場にはさすがに数えるしか車はなかった。大渋滞を恐れて今回はここまで。

11/11(土)京都北2山「多祢寺山タネジヤマ」11:00～11:55(0:55)冬型の天候で天気が目まぐるしく変わる中で山歩き。西コースより往復。登山口は晴れだが、整備された道を進むうちに天気が怪しくなり小雨。淡々と登り進み、平坦な休憩所過ぎるとすぐ多祢寺山山頂。一等三角点、広場と史跡のある山頂で舞鶴湾・海の眺め楽しむ。下ると再び曇り模様のまま戻る。

・「弥仙山」13:30～15:25(1:55)登山口の分水神社口より往復。神社参拝し、近畿自然歩道・参道を沢沿いに進み、石段で沢水楽しみ、於成神社参拝。急坂登ると金峯神社のある弥仙山山頂。参拝し集落等の展望を確認。冬型で風あり。来た道を淡々と下るが天候は曇りのまま戻る。その後移動するも雨降りとなる。

○11/12(日)滋賀北1山。「三重嶽」6:25～12:00(5:35)昨夜の冬型の荒れた天候も収まり、風あるが、晴れの天候。石田川ダム口より周回。林道はすぐの土砂崩れちを乗り越え進み、武奈ヶ嶽登山口。急坂の杉植林地を進むと強風のせい、杉の倒木地帯で、右往左往しながら進み、沢へ回り込み、尾根に上がるが倒木は続く。少し登ると三角点のある角川集落からの合流点。さらに進むと高島トレイルの水越峠からの合流点。稜線を北へと先のピークへ進む。程なく湖北(武奈ヶ嶽)山頂。縦走ルート上の平坦な山頂で、琵琶湖等の眺め良い。さらに先へと稜線を下り、ワサ谷橋への下り分岐。そこからさらに下って行き、最鞍部より登り返す。2Pが尾根経て八玉字谷林道への分岐。さらに進み、高島トレイルを外れ、テープに沿って進むと念願の三重嶽山頂 9:55。二等三角点、琵琶湖、日本海、山々の眺め良い。曇りながら陽光あるも、風は冷たい。周りはブナの木が疎ら。トレイルに戻り、来た道戻るも、来たルートだと時間かかるため、地元山岳会のつけてくれた八玉字谷林道への道へ進む。テープ頼りに順調に下るが、シャクナゲ、椿の枝に邪魔され、道を探しながら進み、いい加減飽きてきて、急坂の樹林のないところ、を谷へと一気に下って行く。急斜面を慎重に下るが、林道が見えないまま、沢に出る11:10。沢を下るもすぐ岸壁に阻まれ下れず、やむなく登り返し、途中ピンクテープあり、もう一度下るも同じと諦め再び登り返し尾根を登り進むと見慣れたテープの本道に出会い安堵。そのまま道を辿り、林道見つけて、橋の袂の三重嶽登山口表示地に無事降りれた 11:30。あとは、林道を川の下る方向へと下って行くとすぐワサ谷橋登山口(武奈ヶ嶽・三重嶽登山口 11:50)。さらにすぐ最初の登山口経てダム口駐車場に戻る。下りは道迷いしたが、林道に出ると意外と早く戻れて助かった。天候晴れだが、近くに歩く山なく、今回はここまで。

12/2(土)3(日)関西北部大遠征。

・12/2 滋賀南1山「音羽山」14:30～16:15(1:45)晴れ NTT 電波塔ゲート口より往復。ゲート抜けて舗装

道進み、途中テープある獣道らしき急坂に取りつき尾根進むと道に出て、すぐ上の送電線鉄塔経てまた道に出る。上の電波塔らしきを目指し、ショートカット狙うも、道路の壁が高く、遙か下の道路の壁伝いに進むとカーブでうまく道路に出て進むと電波塔。さらに左の道進むと東海自然歩道に出会い、幾人かに挨拶しつつ、間もなく音羽山山頂。三角点ある平坦な山頂で、トレランの人に挨拶。京都・大津・琵琶湖の眺め楽しむ。久しぶりの山歩きだが、山歩きの感覚を楽しんで、来た道をゆっくり戻る。

・12/3 滋賀西2山晴れ「白倉岳」6:30～10:15(3:45) 栃生登山口より往復。登山口表示あり、入るとすぐ岩々の急斜面で慎重に進む。急坂をゆっくり進み、植林地で少し緩やかになるもすぐ斜面がきつくなり、マイペースで進むと1P東尾根分岐。あとは稜線歩きで下って上り返すと(南岳)トレランの標識あるブナ・杉林の中の山頂。さらに下り大きな山塊に向かう。次のピークが(白倉中岳)で大きな杉のある平坦な山頂。さらに下って上り返すと白倉岳山頂(8:35)。二等三角点、朝日、風あり、山々の眺め楽しみ来た道戻る。下りの急斜面で3人のパーティに挨拶。好天で久しぶりに山歩きの醍醐味を楽しむ。

・「蛇谷ヶ峰」10:45～13:25(2:40) いこいの森よりさらに南の旧道路終点より往復。先発で4台の車あり。広い林道進み、キャンプ地の展望丘経て林道進むと登山口。左へ進み、次第に尾根へ。整備された段差のある階段を少しバテ気味となりながら大汗かいて登ってゆく。いくつかのルートの合流点経る中、下りの登山者に挨拶しつつ、スキー場ルートと合流する。すると間もなく、蛇谷ヶ峰山頂(12:15)。二等三角点、芝の丘の山頂で360度のパノラマ。晴天で琵琶湖、比良山系の山々、伊吹山等の眺めに感動。ゆっくり食事し、名残惜し気に来た道戻り、上りの登山者に挨拶。人気の山(?)。雪がなく、天候も穏やかで歩きやすい2日間、山歩きを堪能。

12/16(土)17(日)夜行バスで関西遠征。

・12/17 奈良北1山、大阪南2山「屯鶴峯」9:50～12:10(2:20) 近鉄大阪線関屋駅より往復。駅で方向を教えてもらい、旧大学経て案内表示辿る。R165の広い道路に出るも、登山口見つからず、喫茶店で方向教えてもらい、道路峠越え次のコンビニを右折し、南大阪線沿いの道を進み、調整池を進むと、入り口らしきあり進むが、広い旧土場。あたりをつけて急な岩崖を慎重に登り境界道進み鉄塔。さらに進むとピークでここが屯鶴峯山頂。樹林の中の境界尾根で二上山の眺めあり。稜線添いに進み、最初通り過ぎた道を横切り進むと奇岩の景勝地。登山者に挨拶しこの一体が屯鶴峯とのことで納得。下って階段降りると天然記念物「屯鶴峯」の大きな標識とダイヤモンドトレイル起点の表示を確認。駐車場・山入りした池経て来た道戻る。

・「高安山」山頂 14:15「信貴山」同 14:50 13:00～16:25(3:25) 近鉄信貴線服部川駅より往復。時間の制約あり、直登目指し、只管、山を目指し急ぎ進む。神光寺通過し、安国寺入口より工事中の沢筋の工事現場登り、完成間近の大きな砂防堰堤より左の尾根・獣道・急坂に取りつく。慎重に手と足場を確認し登ると尾根。さらに進むと石に青い矢印ペンキ・テープが出て道らしき出て、障害物越えて林道交差点の近畿自然歩道に出る。すぐ近くが高安山の案内あり南へと進み案内表示を登ると高安山山頂。二等三角点、平坦な樹林の中の山頂で、樹間より街が見える。先ほどの林道交差点に戻り東へ進み、下り、有料道路を横断して整備された道を進む。小高い山近くで簡易舗装の作業道に出て、急坂登ると神社鳥居。進むと神社のある信貴山山頂。参拝し、周囲の集落・山々の展望楽しむ。参拝者あり。来た道に戻り、高安山より南の道へ下り、元来た道に出る。旧道らしき、フカフカの落ち葉の道をテープ等確認しながら一気に下る。出たのは、安国寺入口(入口より左側)。昔の道を下った模様。後は、遠回りしつつも、服部川駅に無事辿り着く。これで何とか今年目標である2600山を踏破。

・12/17 兵庫南2山「大峰山」6:35～8:40(2:05) JR 武田尾駅より往復。時間の制約あり、廃線跡のハイキングコースを只管急ぎ足で進む。2つのトンネルも明かり点けずに足元探りで進み、桜の園。ここより山入。整

備された遊歩道を急ぎ足で登り、林間広場で一息し、荷物デポ。サブザックの軽身で、一気に急坂進み、緩やかな稜線進むと大峰山山頂。三角点あり、樹林の中の平坦な山頂。樹間より、山々・晴天の空・朝日をめでる。冬の寒さ感じ、すぐ下山。林間広場で荷物回収し一気に廃線コースに出て、急ぎ足でトンネル抜け駅に戻る。

・「有馬富士」9:50~14:40(4:50)JR新三田駅より往復。例会に参加。台風等で道の通行止め多く、旧道みたいな道を笹の障害物等かき分け進み、バイパスを車に注意し横断。後は整備された舗道進み、福島大池。旧民家見学し西側より進み、急坂岩場のわんぱく岩を経て、有馬富士山頂。三角点あり、樹林の中の広場の山頂。街の展望良い。陽光を楽しみ・昼食後芝生広場を経て来たルートで駅へ戻る。その後、会の忘年会に参加。

#### 年末年始遠征編 その1

○12/29(金)休み ①京都北 日本山岳誌以外1山 雪のち雨(経ヶ岳)14:30~17:40(3:10)天候不良だが三国岳の行けるところまでと桑原橋口の高島トレイル起点より往復。最初踏み跡から新雪20cmで先が思いやられる。トレイル標識確認し進むも雪で尾根の取りつきさえ不明で探して急坂をいつものピン付き長靴とスキースtockで登ってゆく。当然踏み跡なく、道らしき辿り尾根を進む。雪が深くなり、下も雨具付け吹き溜まりは、膝で雪を押し付けるように進む。時折雪・風が吹き付ける中、1Pの(経ヶ岳)。樹林の中の平坦な山頂で雪で視界なし。右へ(北へ)稜線進む。獣の足跡にまで惑わされつつ、下り丹波越。分岐の標識を確認。三国岳まで進にも、雪が深く、時間切れ。諦めて、標識に沿って桑原橋へと谷を下るも、新雪が深く幾らか下り断念。戻りも深く苦戦しつつ丹波越に戻る。来た道・足跡辿り、薄暗い中、麓は雨模様の中戻る。今度も三国岳に行けず、いつ行けるか?

②奈良北2山「若草山」山頂 22:05「春日山」同 23:05 21:25~23:35(2:10)春日山遊歩道口より往復。奈良へ移動し遊歩道で車が上から下って来るのに驚く。薄明かりで、遊歩道をライトなくとも歩けるため、下見で上へ。途中車が登ってくる。不思議と上へ進むと施設あり、その関連で車あり。遊歩道は車両通行止めだが車が通行できる広い林道で薄明かりで上へ上へと若草山へと進んで行く。9合目には、別からの車道から堂々と車が駐車場に来ており啞然。明かりも多い。明かり灯籠に照らされた舗道を進んで行くと開けた広場で奈良市内の夜景がキレイ。その上の古墳跡が若草山山頂で、二等三角点、月明かり、冬風あり。広場には、若い人、カップルがちらほら。来た道戻り、途中方向を確認してライト点けずに別の道らしきを辿る。迷いつ戻りつ進むと春日本宮大社に出て参拝。平坦な春日山山頂。来た道を探しつつ、ライトは点けずに、広い遊歩道まで出て安堵し、遊歩道を無事戻る。

○12/30(土)晴れ奈良北3山、中央2山「高円山」4:50~6:45(1:55)奈良白毫寺口より往復。登山口分ならず、墓地等行ったり来たり。墓地奥より山に取りつき、尾根へ。尾根伝いに上へ上へと登ってゆくと本道と合流。さらに登ると南側からの道とも合流し上へ。進むと広い草原で奈良十文字焼の慰霊舞台。丘を過ぎさらに尾根を登ってゆくと高円山山頂。二等三角点あり、樹林の中の丘の山頂で奈良市街の早朝の明かりが見える。来た道戻り、途中火元札の分岐を左に下る。池を2つ経て舗道に出て、近畿自然歩道経て戻る。

・「花山」7:20~9:10(1:50)柳生街道石切峠前駐車場より往復。峠越え、一部崩壊し車が通行できない舗道を下って行き、有料ドライブウェイに出る。左へ行くが山なく、戻り右へ下ってゆく。いくつか山に登るが、特に何もなく、思案していると遊歩道を歩いてくるジョギングの女性に会い尋ねる。親切に、方向は北へ下った先に山名の地蔵あるとのこと。励まされて気合を入れ、少し下り、山らしきに取りつき、上へ上へと登り、稜線。さらに登ると一部テープもあり、ピーク近くでトレイルルートに合流。先へ進むと神社あり。神野神社で参拝。ここが花山山頂で、樹林の中の平坦な山頂。朝日が心地よい。来た道戻り、途中開いてなかった芳山交番にバイクを確認し戻る。

・「城山」9:50～11:15(1:25)R186 沿いの茶畑入口近くに車を止めて往復。山の方向へと車道、作業道進み、山入り。方向を確認し、尾根道らしきを下り、急な岩場を慎重に下って、沢に出る。上流へ進み、途中より獣道らしきより取りつき。坂を上へ上へ登り、さらに急な坂を経て城山山頂。五社大明神あり拝む。三角点ある樹林の中の山頂。陽光清々しい。来た道戻り、最後は、テープのある作業道を確認して戻る(でも旧道か)。

・「御破裂山」12:30～14:15(1:45)R155 ピークより往復。一旦舗道を下り神社脇の道を上へ登ってゆくと舗道出会い。アップダウンし進むと談山神社からの道と合流。さらに進むと奥社あり。ここが御破裂山山頂。参拝し奥の展望を確認し来た道戻る。

・「高取山」16:30～17:30(1:00)林道終点より往復。大きな城跡で、階段・石段を上り、石垣の見事な城跡を上へ上へと急ぐ。広い城跡のさらに上の本丸が高取山山頂。三角点あり、夕闇迫るも、大木のある静かな佇まいと丸に近い大きな月に昔を偲ぶ。

## 年末年始遠征編 その2

○12/31(日)曇り一時晴れ 大阪南2山

・「一徳坊山」9:30～12:40(3:10)岩湧公園駐車場P6 より往復。朝方雨で、別の山を下見し、ここも天候不明なため、偵察でトライ。最短コースをと考え、登り口不明につき、少し舗道を下り、沢へ下り、山入り。道らしきとテープ・階段もあり、上へ上へと登ってゆくと遊歩道の「すぎこだちの道」に合流。整備された道を進み、急な階段上るとトラバース道のため、直登で、ユナラ調査テープ等確認しつつ、急坂登り稜線。少し行くと(編笠山:平坦な樹林の中の山頂)。稜線を下り作業道経て、標識確認し進むとドンドン下ってゆく。鞍部で2道分岐で、テープ進むと作業道に出て間違いに気づき、戻る。30分ロス。北へと下り、編み笠のコル。稜線を進むと鉄塔と三角点を確認。北へ下ると山なく戻り方向を確認し鉄塔を西へと進んで行くと一徳坊山山頂。痩せ尾根の樹林の中の山頂で標識 6 つもあり。太陽が顔を出す。来た道を淡々と戻り、最後はテープを辿ると岩湧公園入口に出た。

・「槇尾山」13:45～15:25(1:40)公園口駐車場より往復。舗道・石段歩きし、大きなリュックの3名に挨拶。ダイトレを3日間で縦走。ただ、ダイトレの最終標識の確認ができなかったとのこと。参拝者の多い石段を進み施福寺。年末準備と参拝者で賑わっていた。山へと進むところにダイトレの起点石碑を確認。山へとトラバース道進み、急な石段はパスし、檜原越へと進みすぐの尾根を上へ上へと進むが、難敵で、急な岩場にへばりつく様に慎重に登り、本道に合流し上へ進むと槇尾山山頂。樹林の中の広場の山頂。西側展望良い。南へのルート確認し、北へ下る。途中、尾根より緑テープの右へ下り、荒れた道を下ると碑あり、その先に例の石段。急な石段を慎重に下り来たトラバース道に出て戻る。

○今年山行は、天候等との関係もあり、山入り82日、197山となった。

12/30 奈良北2山「松尾山」山頂 12:40「矢田山」同 13:35 12:30～14:15(1:45)晴れ松尾寺駐車場より往復。坂を上るとすぐ松尾山山頂。

電波塔脇で二等三角点、樹間より山等の景色見える。矢田丘陵への道に戻り尾根伝いに進むと道幅の広い遊歩道。マウンテンバイク・ウォーキングの人とすれ違い挨拶。峠経て登ると矢田山山頂。広場の丘の山頂で、展望台があり、矢田丘陵・街並みの展望楽しむ。来たルートに戻り、松尾寺を参拝。

なお、12/30の登山時刻は誤りで次が本当。「御破裂山」15:45～16:30(0:45)、「高取山」17:10～17:30(0:20)

